

彦根市埋蔵文化財調査報告第17集

葛籠南遺跡第2次調査、蛭目遺跡

—団体営ほ場整備事業に伴う—

平成元年3月

彦根市教育委員会

序

彦根市では、明日に向って息吹のみなぎるまちを実現するために、21世紀に向けてのまちづくり構想である「彦根ルート2001計画」を策定しました。これは、今日までの歴史的、文化的な蓄積の上に急激に進行する社会の変化に対応しながら彦根らしい風格のあるまちづくりをめざしたものです。

一口に「彦根らしさ」と言いますが、私達の彦根には数千年の時間的な流れがあります。人々の生活の中で生み出され残されてきたものが、文化であり伝統であると考えます。また、琵琶湖に代表される豊かな自然も「彦根らしさ」を考える上で欠かす事が出きない存在だと思います。これ等のものが渾然一体となって作り上げられたものが「彦根らしさ」であり、今後とも創り出されて行くものだと考えます。文化財はこの中で彦根の地に流れた時間を実感できる貴重な資料であると考えます。

この様な意味で、本書が彦根を知るうえでの資料となれば幸いです。最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力をいただきました河瀬土地改良区、南部土地改良区をはじめ多くの方々に厚くお礼を申し上げます。

平成元年3月

彦根市教育委員会

教育長 北川治男

例　　言

1. 本書は、昭和63年度に実施した補助事業市内遺跡群発掘調査事業の報告書である。
2. 遺跡は、葛籠南遺跡が彦根市葛籠町地先に、蛭目遺跡が彦根市清崎町地先に所在する。
3. 調査は、葛籠南遺跡が河瀬土地改良区、蛭目遺跡が南部土地改良区の依頼に基づき彦根市教育委員会が実施した。
4. 調査は、次の体制で実施した。

彦根市教育委員会

社会教育課長	安沢 進
同課長補佐	尾本吉史
同文化財係長	日夏秀喜
同文化財係技師	本田修平

5. 現地の調査および整理作業には、原弥助、鈴木千代、若林佳子、大堤須美子、若林善五郎、中尾芳雄、西村薰、出口加寿夫、西村昭三、北川正吉、寺村きみ子、寺村さだ子、疋田千鶴子、寺村まつ、古川久、茶木作次、茶木重造、伏木和子の諸氏が参加した。また、蛭目遺跡出土の木製品については、滋賀県埋蔵文化財センターに保存処理をお願いしている。記して感謝したい。
6. 出土遺物等の資料は本市教育委員会が保管している。

目 次

序

例言

葛籠南遺跡第2次調査

1.はじめに	1
2.調査結果	2
3.まとめ	6

経目遺跡

1.はじめに	7
2.調査結果	9
3.まとめ	12
4.出土遺物観察表	13

図 版 目 次

図版1	調査地点と周辺の遺跡	29
図版2～3	トレンチ配置図	30
図版4～7	造構図	32
図版8～16	出土遺物実測図	36
図版17～22	造構写真	45
図版23～32	出土遺物写真	51

葛籠南遺跡第2次調査

1.はじめに

葛籠南遺跡の発掘調査事業は、昭和62年度の調査に続き今回で第2次調査である。第2次調査も昨年度の調査と同様、河瀬土地改良区が実施する団体営ほ場整備事業に先づ事前調査として実施した。前回の調査では、萬籠町南側に奈良時代と考えられる掘立柱遺物跡群を中心とする遺構を検出したが、その広がりは地形的なものに非常に制約されたものであった。つまり、葛籠町付近は、地理的に見れば犬上川が形成した扇状地の先端部にあたり、比較的狭小な微高地が点在する地形が本來の姿であったと思われる。その後の沖積作用と長い年月の間の人々の努力の結果、現在の様な田園風景に作られたのだが、遺跡は狭小な微高地に点在しているものと考えられた。

調査範囲内の田は、新幹線側から葛籠町に向って階段状に低くなっているが、ほ場整備工事はこの地形に沿って田を造成する設計であり、田面の大幅な切り盛りは計画されていなかった。このため、調査は前年と同様に確実に掘削される排水路に試掘トレンチを設定して、遺構面、包含層等遺跡の範囲を先ず確認して、遺跡が確認できた地点についてはトレンチを拡張して遺跡の時代や性格等を把握する事を目的に計画した。

試掘トレンチは、地形的な関係があり多小の出入りはあるが、田1枚おき（約20m）に1ヶ所設定する事を基本にしたが、結果的には今年度の調査範囲で計33ヶ所になった。このうち、遺構面を確認したトレンチは、甲良町との境界にあたる所で、拡張したトレンチを1Tと2Tにした。1Tについては、従来考えていた葛籠南遺跡の範囲からは外れるため、葛籠東遺跡として新たな遺跡とした方が良いかも知れないが、ここでは葛籠南遺跡として報告しておく。葛籠南遺跡の性格として、今までに知られているのは、比較的狭小な微高地に奈良から平安時代にかけての掘立柱建物跡の遺構が点在している事であり、今回検出した1T、2Tについてもその基本的な性格は変わらないものであったためである。将来、遺跡の全体像を把握して同一の集落になるか否かを検討する必要があるが、今後の課題としたい。

現地の調査は、昭和63年7月25日から実施して同年9月2日までを費やした。その後、資料の整理作業を行い、平成元年3月31日で全ての作業を完了した。

2. 調査結果

試掘トレンチは、重機で3m×3mの大きさでほぼ20mのピッチで排水路予定地に設定し、遺路の範囲を把握する事から始め、トレンチは全部で33ヶ所になった。遺構は、調査範囲の5号排水路東端と6号排水路東端で検出した。基本的な土層は、耕作土が40cmあり、第2層は灰褐色粘質土でこの層が包含層となり、第3層は黄褐色粘質土層で、この層が地山となるが、現地表から遺構面までは約60cmであった。

調査範囲東端で検出した遺構面を調査するために設定したトレンチを1Tとし、南側排水溝のものを2Tとした。1Tは約56mの長さであり、2Tは約50m張の長さになった。この事から、遺構の広がりはかなり限られた範囲であり、ピットを中心とする遺構から集落跡と考えれば、小規模な集落が点在するものと考えられる。

以下、各トレンチの遺構の検出状況について記す。

— 1 トレンチ —

長さ約56mで幅4.5m前後の規模で設定したトレンチで、20~30cmのピットを多数検出した。地山は、黄褐色粘質土が主体であるが、北側は青灰色粘土層になる。トレンチ南側は洗濯板状に凸凹しながら南に向って落ち込んでおり、この落ち込みの中には若干の須恵器等の遺物が入っていた。遺構は、トレンチが排水路の掘削幅だけしか調査していないので建物が建つかどうかは不明であるが、直線で2間、3間と並ぶ所が10ヶ所ある。

柱列—1

径40cm前後のピットが2mの柱間で、主軸はN—38°—Eである。この柱列から直角に2間の柱列が伸びるが、柱間は2.8mを計る。

柱列—2

径30cm前後のピットが柱間2mで4間並び、主軸はN—61°—Wである。

柱列—3

径30cm前後のピットが柱間2.2mで2間並び、主軸はN—57°—Wである。

柱列—4

径30cm前後のピットが柱間2mで2間並び、主軸はN—50°—Wである。

柱列—5

柱列—4とほぼ並行にならぶもので、ピットは径30cm前後で柱間1.6mで2間並び、主軸はN—48°—Wである。

柱列—6

径20cm前後のピットが柱間2mで3間並び、主軸はN—68°—Wである。

柱列—7

柱列—6と並行するもので、ピットは径20cm前後で柱間2mで2間並び、主軸はN—67°—Wである。

柱列—8

「L」字形に径20cm前後のピットが2間×2間で並ぶもので、柱間は1.2mを計り、主軸はN—58°—Wである。

柱列—9

径30cm前後のピットが柱間1.5mで2間並ぶもので、主軸はN—73°—Eである。

柱列—10

トレンチ北端で確認したもので、径20cmのピットが柱間1mで2間並び、主軸は西に向いている。

1トレンチは、小ピットが多数検出できると共に性格が不明な落ち込みも多く、ピットは掘立柱建物跡の可能性が大であるが現状では断定しきれなかった。出土遺物は落ち込みに少量入っており、奈良時代の遺構面と考えている。

—2トレンチ—

長さ約53mで幅4.5mの規模で設定したトレンチで、1トレンチ同様20cm前後的小ピ

ットを主体とする遺構を多数確認した。地山は、1トレンチ同様黄褐色粘質土層であり、第3層の包含層等に若干の遺物が入っていた。

S B-1

トレンチ北端で検出した掘立柱建物跡で、現状で1間×2間であるので、これ以上の規模である事はまちがいない。ピットは最大のもので径30cmであり、柱間は3mを計る。主軸は、N-55°-Wであった。

柱列-11

S B-1と並行して径20cm前後のピットが柱間2mで3間並ぶもので、主軸はN-55°-Wである。

柱列-12

径20cm以下のピットが柱間2.2mで2間並ぶもので、主軸はN-57°-Wである。

柱列-13

径20cm前後のピットが柱間1.8mで2間並ぶもので、主軸はN-64°-Wである。

柱列-14

径20cm前後のピットが柱間2mで3間並ぶもので、主軸はN-38°-Wである。

柱例-15

径30cm前後のピットが柱間1.2mで2間並ぶもので、主軸はN-56°-Wである。

柱列-16

径40cm以下のピットが柱間2.8mで2間並ぶもので、主軸はN-70°-Wである。

柱列-17

径30cm前後のピットが柱間2.2mで2間並びそれから直角にふると1.8mの所にピットがあるもので建物跡の可能性が比較的大きい。主軸は、N-58°-Wである。

以上の様に 2 トレンチでは掘立柱建物跡 1 株を確認した事から、他の柱列も建物跡になる可能性が非常に大きいが、限られた調査範囲のために、今回の調査ではその事が明確になるまでには至らなかった。遺物は包含層から少量出土しており、土師器の小甕等奈良時代と考えられるものであった。

3. ま　と　め

以上の様に今回の葛籠南遺跡第2次の発掘調査では、扇状地先端部に位置する遺跡の立地から、遺跡はこの地形に制約された状況を示す。すなわち、ピットを中心とする遺構群が狭小な微高地に点在している状態で、ここでは一応掘立柱建物跡の集落跡と考えている。この調査結果は、昨年度実施した葛籠南遺跡の調査結果と一致している。

今回の調査結果をもう一度まとめると、確実な遺構としては掘立柱建物跡が一棟だけであったが、この他に2間から3間の直線に並ぶ柱列を17ヶ所検出している。この事から今回の調査で検出したピットは、人工的なものと考えていいだろうし、建物跡の一部になるものもあると考えられる。ただし、今回の調査は、排水路予定地と言う遺跡のごく一部だけの調査であったため、その全容を明らかにする事はできなかった。

この付近の調査は、ほ場整備事業に伴って近年比較的進んできた。特に奈良時代の集落が多く確認されており、扇状地における開発の進展を資料で証明できる可能性がおおきくなっている。葛籠南遺跡に限定して考えればほぼ100mごとに掘立柱建物跡を中心とする遺構群が確認できた。これらの遺構群が1つの集落としてまとまるのか否かは、今後の調査で集落構成を確認しなければならない。今後の大きな課題であると考えられる。

蛭目遺跡

1.はじめに

蛭目遺跡は、彦根市清崎町地先に所在する。清崎町は、JR西日本東海道本線河瀬駅の西約1kmの朝鮮人街道沿いに位置する。朝鮮人街道は、江戸時代の彦根の中山道と並ぶ主要街道であり、朝鮮使節が通る事からその名になったと言われている。この朝鮮人街道は巡礼街道とも呼ばれるが、『扶桑略記』の「彦根寺験記」によると平安時代には観音靈場として流行した彦根寺があって、この彦根寺への都からの道が巡礼街道であると言われており、古代からの主要な街道であったと思われる。これ等のことから考えると、清崎町は古代から街道とともにその時間を過して来たと言える。

蛭目遺跡の名称はその小字に由来するが、小字「蛭目」の名称から連想される様に非常に地下水位が高く、以前は強い湿地であった事がうかがえる。地形的に見れば、豊かな沖積地を形成しながら北流する宇曾川が湖岸の独立丘陵である荒神山に行手を阻まれ、山裾を回り込んで琵琶湖へと流れる。この屈曲部に南と西側を囲まれ、地下水が滞留しやすい地形になっている。現在の宇曾川は災害復旧工事が完成して、川幅が広げられる同時に屈曲も緩やかに設計され、また上流にはダムが作られている事から水流も少ない。しかし地元の人の話によると、以前には宇曾川に舟が上って来たとのことで、水流も豊かで水運に利用されていた事がわかる。

この附近をやや大きく地形的に見れば、湖岸に位置する荒神山と宇曾川が地形的な関門となり北と南を分けており、戦国時代における佐々木氏と六角氏の領の削り合いはこの地で主に行なわれていた。

以上、蛭目遺跡を取り巻く地理的な条件を述べたが、次の調査に至った経緯について記したい。

彦根市南部土地改良区は以前から、宇曾川以北のほ場整備を実施して來たが、昭和62年度以降の事業として清崎地区のほ場整備事業を計画した。この計画地域の中には蛭目遺跡が含まれているために、当市教育委員会と南部土地改良区の間で協議した。計画では昭和63年度となっているが、はっきりした工程はこの時点ではまだつかめなかつたために、先ず事務手続を進めることとした。

蛭目遺跡の埋蔵文化財発掘届および発掘調査依頼は、昭和62年10月1日付彦南改発第

67号で当市教育委員会に提出があった。これを受けた当市教育委員会では発掘調査の終了時期が昭和64年3月末日までの発掘調査通知を昭和62年11月2日付彦教委社第1038号で県教育委員会に提出した。

その後、姫目遺跡を含む工区の工事は、南部土地改良区の工程で昭和63年度の冬期施工の予定になり、現地の調査は秋の取り入れ後に実施することとした。遺跡は、以前の市内遺跡分布調査で須恵器等の遺物が表土で採取できる散布地であるが、その性格等は把握できていなかった。また、ほ場整備工事も掘削は排水路だけであり田面の大幅な切り盛りの計画はないため、排水路に試掘トレンチを設定して遺構等が確認できた地点では可能な限りトレンチを拡張してその性格を把握することとして調査を計画した。

調査は、他の発掘調査の関係で昭和63年11月11日から実施し、同年12月2日まで現地での発掘作業を行なった。試掘トレンチは計16ヶ所設定し、そのうち8~10トレンチで遺構を検出し、また14~16トレンチでは良好な包含層および溝等を確認した。その後、資料の整理作業を行ない平成元年3月31日をもって全ての作業を終了した。

2. 調査結果

試掘トレンチは、重機で 3×3 m の大きさでほぼ 20m のピッチで排水路予定地に設定し遺跡の範囲を把握する事から始めた。調査範囲の南側排水路部分に設定した 6 T までは、耕作土、第 2 層の黄褐色粘質土（床土）に若干の須恵器等の出土が見られたが、第 3 層は青灰色シルト層から砂礫層になり、遺構は検出できなかった。遺構・包含層等が確認できたのは、調査範囲のほぼ中央部を走る水路を越えた北側の田で 7 ~ 10 T と 15、16 T までは遺構、包含層等を確認した。このため引き続きトレンチの拡張にうつり、8 T については拡張し、9 T・10 T は結果的に同一のトレンチとなった。また、15 T と 16 T の間には 17 T・18 T を設定した。

蛭目遺跡は、前述した様に宇曾川の下流部に位置しており、宇曾川は荒れ川だったと言われる事から激しい沖積作用が働いていたものと思われる。この事は、遺跡の基本土層にも良く表れており、耕作土・第 2 層黄褐色粘質土層（床土）・第 3 層青灰色シルトから砂礫層となり、遺構が確認できた地点では、この第 3 層に黒灰色粘質土（包含層）で第 4 層に前記した第 3 層が入り遺構面になる。第 3 層の黒灰色粘質土の包含層は 10 ~ 15cm の極薄いもので、現在の田面から遺構面までは 50cm 前後の深さであったが、地下水位が高く絶えず湧水があり、翌日にはトレンチ全体が水についた状態になり、作業はあまり捗らなかった。

次に各トレンチについて記したい。

— 9・10 トレンチ —

遺構を確認した地域の東端に位置するトレンチで、試掘の時点では、9 T、10 T と 2 つの試掘トレンチであったが、その後の拡張の結果 1 つのトレンチとなり 9・10 トレンチとしたものである。地山は、青灰色シルトから砂層まで微妙に変わり典型的な沖積地の様相を示す。遺構はピット、土壙及びほぼトレンチと並行して走る溝であったが、このうち溝は自然流路の可能性もある。

ピットは、径 30cm 前後のものを 9 ヶ所検出している。このうちトレンチ中央部で検出した P-1 は、深さ約 10cm の所で小判型の木製品が出土している。また、P-2 内には石が落ち込んでいた。P-2 からは柱間 2 m で 3 つのピットが並び建物跡の可能性が考えられる。P-1 内の小判型木製品は礎板の可能性も考えられるが、今回の調査では不

明であると言わざるをえない。

土壌は、SK-1～6まで検出した。SK-1は、これ等の土壌の幅で遺物が一番多く入っていたもので、多量の土師器の小皿の他、木製品としては下駄、黒漆の椀等とともに用途は不明であるが5mm角の両端を尖らした30cmほどの木製品が多量に出土し、また砥石も出土している。SK-2～6までは遺物の出土量は少なく木製品もほとんど出土していない。SK-4は、長径4.9mのものであるが、北端には電柱の支線の基礎と思われる松の丸太が埋め込んでおり、この部分は現代の擾乱である。

溝(SD-1)は、遺構検出時に浅い部分がとんびりてしまったが、本来的には統いて1本のものであった。遺物の出土量は極少量であり、木製品等もほとんど入っていないかった。また、トレンチ北側約1mの地点で確認したトレンチに直交する細い溝は、田の湿け抜きと考えられる。

— 8 トレンチ拡張 —

9・10Tの南側に設定したトレンチで、地山は粘質がやや強い青灰色シルトが落ち込みまで、南半分は砂礫層になる。遺構は、溝と落ち込みであり、トレンチ北側の溝は9・10T検出した溝と基本的には同一のものと考えられ、それが南側に広がる低湿地もしくは沼状の落ち込みに流れ込むものと考えられる。この落ち込みは、精査するとやや粘質の強い所が溝状に見えたためSD-3として掘り込んだ。この埋土の中には土師器小皿の他木製品としては曲物の底が出土している。

トレンチの大半をしめる落ち込みは、溝等で区切られる事からSK-1～4として掘り込んだが、結果的に見れば全体で一つの沼状の落ち込みを形成していると考えられる。トレンチ南側は地山が砂礫層になり、溝状にやや砂質の強い落ち込みが検出できたが、これも同一時期に形成されたものと考えられる。掘り込み時点では北側から一応SK-1～4として調査したため、遺物はそれでマーキングされている。この落ち込み内には、土師器皿、土錐の他に山茶碗等の灰釉・瓦質の羽釜、中世陶器等の他に木製品としては黒漆椀や砥石も出土している。

トレンチ中央部には、トレンチと直交する様に抗列も検出できたが、この打ち込み面は不明である。

8T拡張と9・10Tの遺構の検出状況を考え合わせれば、8T拡張で検出できた落ち込みに向って両側から自然流路状の溝が流れ込んでいるものと考えられる。また、数は

少ないが礎板状の板の入ったピットもあり、建物跡かどうかは不明にしても柱状のものがピットに建てられていた事が考えられる。

—15~18トレンチ—

調査範囲の最も宇曾川寄りに設定したトレンチ群で試掘調査時には15・16Tとして設定したが、良好な包含層を第3層で確認したため、両トレンチの間に17、18Tを設定して調査した。第3層の灰褐色粘質土は20~30cmと包含層としてはしっかりとおり、須恵器や土師器皿等を多量に包含していた。このため、手掘りで包含層を下げて行ったのであるが、第4層の灰黒色粘土層に溝、ピット等の遺構を検出した。16Tでは2ヶ所の土師器皿が集積した土器溜りがあり、また現況の田と並行する溝も16、18、17Tと統一して検出できたが、15Tではこれが南側に落ち込み状に広がる可能性がある。16Tではこの溝から北側に直角に溝が走り、この溝の内に小さな土壙があり、古式土師器が出土した。また、古式土師器は15Tの落ち込み内の土壙からも出土している。

15・17Tではピットを確認しているが、調査範囲が狭かったために、その性格までは把握できなかった。

3. ま　と　め

以上の様に、今回の調査で確認できた事を述べて来たが、以下に蛭目遺跡の性格について若干記す。

調査結果から見れば、散布地南半分は宇曾川後背湿地もしくは氾濫原であった可能性が強く、試掘調査で若干出土した遺物は流れ込みによるものと考えられた。また、今回の調査地点は低湿地と微高地の接点であると考えられ、遺跡本体の性格を把握するまでには至らなかった。

遺跡の年代は、出土遺物から見ればその開始は古墳時代前期と考えられ、古墳時代終末期の遺物等も出土しているが極少量であり、遺跡が最盛期を迎えるのは12～13世紀の中世に至ってからである。この間の遺物は時代的に連続しているのではなく非連続的であるので、地形的に安定した状態にあったとは言いがたい。これは、地形的に見れば宇曾川が荒神山に行く手を阻まれて屈曲して「L字」型に折れ曲り、水が滞留しやすくまた川も氾濫しやすい地形である事、また地下水位が非常に高い事から見ても生活の場として安定した状態は非常に短期間だったと考えられる。地元の人の話では、昔は清崎に舟着場があったとの事であるが、上記した状態から考えれば、舟は重要な生活の手段だったのでないだろうか。

4. 出土遺物観察表

萬葉南遺跡 第2次 考					
番号	種類形態	法式	形態	調査	施上・色調・地紋
1 須恵器 甕	口径41.6cm (底上復元)	○口縁部は外側して開き、端部を面取りして平らに おさめる。 ○底部は強くしきっている。 ○体部は肩部が強く強る。 ○口縁部から縫部にかけて自然輪がかかる。	○口縁部から縫部は外外面下に内面横溝ナメ調整。 ○体部は外側で内面背後溝ナメ調整。 ○その後外面を部分的に横ナメ調整。	施土：良好 色調：淡灰色 焼成：硬	1T 包含層
2 須恵器 甕	口径20.7cm	○口縁部は弱く外寄して開き、端部下面を引き出し て断面三角の口詰を作る。 ○底部はあまり盛らない。 ○体部はあまり肩が張らずに最大腰径に至ると思わ れる。	○口縁部、頸部とともに横ナメ調整。 ○体部は外側ハケ溝形後に横ナメ調整で、内面横ナ メ調整。	施土：良好 色調：淡青灰色 焼成：硬	1T 包含層
3 須恵器 甕	高台径 9.3cm	○高台は縫部外面が引き出され断面台形をなす。 ○体部は、外傾しながら深く内擗して立ち上がる。	○高台は強引付け高台で内外面横ナメ調整。	施土：良好 色調：淡灰色 焼成：硬	1T 包含層
4 須恵器 甕	高台形13.5cm	○高台は、断面逆台形を成す。 ○体部は、外傾して立ち上がる。	○高台は強引付け高台で内外面横ナメ調整。	施土：良好 色調：淡灰色 焼成：硬	1T 包含層
5 須恵器 甕	高台形11.5cm	○高台は、断面四辺形を成す。 ○体部は、外傾して立ち上がる。	○高台は強引付けで内外面横ナメ調整。 ○体部は内外面ともに横ナメ調整。	施土：良好 色調：青灰色 焼成：硬	1T 包含層

番号	種別	形	量	性	感	調	整	備考
6	信楽焼 蓋	口 径33.3cm 底面直15.3cm	○ 口縁部はあまりしまらない強部より強く筋曲して開き、端縁を折り曲げて上方に張き出しきれいな形状に作る。 ○ 外面に自然釉がかかる。	○ 体部および口縁部は内外面ともに樹ナナデ彫紋。 ○ 体部外面は運行タキ京が部分的に残りタキ成形の後にロクロナナ彫紋しており、内面はロクロナナデ彫紋。	○ 体部および口縁部は内外面ともに樹ナナデ彫紋。 ○ 体部外面は運行タキ京が部分的に残りタキ成形の後にロクロナナ彫紋しており、内面はロクロナナデ彫紋。	○ 体部および口縁部は内外面ともに樹ナナデ彫紋。 ○ 体部外面は運行タキ京が部分的に残りタキ成形の後にロクロナナ彫紋があり、内面はロクロナナデ彫紋。	○ 体部および口縁部は内外面ともに樹ナナデ彫紋。 ○ 体部外面は運行タキ京が部分的に残りタキ成形の後にロクロナナ彫紋があり、内面はロクロナナデ彫紋。	粘土：鳥好 (2mm) 骨灰 色調：茶褐色 (釉調：茶色) 焼成：焼 8 T 加熱 SK-1
7	信 蓋	口 径32.3cm 底面直15.3cm	○ 不整形な平底より体部は外傾して立ち上がる。 ○ 底部内面に自然釉がかかる。	○ 体部外面は外傾して開き、「T」脚部は端部上面をやや上方に引き出し、断面三角形を成す。 ○ 口縁部外面は黒茶色である。	○ 体部外面は外傾して開き、「T」脚部をやや斜く作り端部を丸くおさめる。	○ 体部および口縁部は内外面ともにロクロナナデ彫紋。	○ 体部および口縁部は内外面ともにロクロナナデ彫紋。	粘土：鶴良 色調：淡灰色 焼成：焼 8 T 加熱 SK-1
8	東福寺 鉢	口 径32.3cm 底面直16.2cm	○ 体部は外傾して開き、「T」脚部は端部上面をやや上方に引き出し、断面三角形を成す。 ○ 口縁部外面は黒茶色である。	○ 体部は外傾して開き、「T」脚部をやや斜く作り端部を丸くおさめる。	○ 高台は張り付けと思われに樹ナナデ彫紋で、側面部には樹ナナデ彫紋。	○ 高台は張り付けと思われに樹ナナデ彫紋で、側面部には樹ナナデ彫紋。	○ 高台は張り付けと思われに樹ナナデ彫紋で、側面部には樹ナナデ彫紋。	粘土：鶴良 色調：淡灰色 焼成：焼 8 T 加熱 SK-3
9	灰 鉢	口 径30.1cm 高台直16.2cm	○ 体部は外傾して開き、「T」脚部は端部上面をやや上方に引き出し、断面三角形を成す。	○ 体部は外傾して開き、「T」脚部をやや斜く作り端部を丸くおさめる。	○ 体部および口縁部は内外面ともにロクロナナデ彫紋。	○ 体部および口縁部は内外面ともにロクロナナデ彫紋。	○ 体部および口縁部は内外面ともにロクロナナデ彫紋。	粘土：鶴良 色調：淡灰色 焼成：焼 8 T 加熱 SK-1
10	利悲器 鉢	口 径15.9cm 高台直11.1cm	○ 体部は強く外傾して開き、「T」脚部は外傾して開く。 ○ 体部外面は器蓋が摩耗している。	○ 体部は強く外傾して開き、「T」脚部は外傾して開く。 ○ 体部外面は器蓋が摩耗している。	○ 体部および口縁部は内外面ともにロクロナナデ彫紋。	○ 体部および口縁部は内外面ともにロクロナナデ彫紋。	○ 体部および口縁部は内外面ともにロクロナナデ彫紋。	粘土：鳥好 (2~3mmの長石) 骨灰 色調：乳白色 焼成：焼 8 T 加熱 SK-1
11	白 碗	口 径15.9cm 高台直 5.6cm	○ 体部は強く外傾して開き、「T」脚部は外傾して開く。 せて立脚状を成す。	○ 滲台は断面四辺形をなし、体部は内凹きみに開く。 ○ 滲台は高台内面と底部外面をのそき全体にかかっている。	○ 滲台は断面四辺形をなし、体部は内凹きみに開く。 ○ 滲台は高台内面と底部外面をのそき全体にかかっている。	○ 滲台は断面四辺形をなし、体部は内凹きみに開く。 ○ 滲台は高台内面と底部外面をのそき全体にかかっている。	○ 滲台は断面四辺形をなし、体部は内凹きみに開く。 ○ 滲台は高台内面と底部外面をのそき全体にかかっている。	粘土：鶴良 色調：乳白色 焼成：焼 8 T 加熱 SK-1
12	青 碗	口 径15.9cm 高台直 5.6cm	○ 滲台は断面四辺形をなし、体部は内凹きみに開く。 ○ 滲台は高台内面と底部外面をのそき全体にかかっている。	○ 滲台は断面四辷形をなし、体部は内凹きみに開く。 ○ 滲台は高台内面と底部外面をのそき全体にかかっている。	○ 滲台は断面四辷形をなし、体部は内凹きみに開く。 ○ 滲台は高台内面と底部外面をのそき全体にかかっている。	○ 滲台は断面四辷形をなし、体部は内凹きみに開く。 ○ 滲台は高台内面と底部外面をのそき全体にかかっている。	○ 滲台は断面四辷形をなし、体部は内凹きみに開く。 ○ 滲台は高台内面と底部外面をのそき全体にかかっている。	粘土：鶴良 色調：淡灰色 焼成：焼 8 T 加熱 SK-1

番号	種類器形	法 量	形 態	調 整	施土・色調・焼成 参考	
13 灰 釉	灰 釉	高台径 7.7cm Q 高台は断面逆台形を以し、体部は外傾して開く。	○高台は張り付け高台で、体部、内外面はクロナ デ調整。 ○底部外面は糸切り。	○施土：良好 色調：白衣 焼成：焼	8 T 塗装 SK-1	
14 灰 釉	灰 釉	高台径 8.7cm Q 高台は不整形な逆台形を成し、体部は外傾して開 く。	○高台は張り付け高台で、体部、内外面はクロナ デ調整。 ○底部外面は糸切り。	○施土：良好 色調：白衣 焼成：焼	8 T 塗装 SK-1	
15 灰 釉	灰 釉	高台径 9.8cm Q 斜面は断面不整形な逆台形で体部は外傾して開く。	○高台は張り付け高台で、体部は内外面ともにロク ロナデ調整。	○施土：良好 色調：白衣 焼成：焼	8 T 塗装 SK-3	
16 灰 釉	灰 釉	高台径 7.5cm Q 斜面は体部前面に塗り掛け。	○高台は断面三角形で体部は内弯ぎみに開く。 ○高台端部に糸あとが残る。 ○釉は体部前面に塗り掛け。	○高台は張り付け高台で、体部は内外面ともにロク ロナデ調整。 ○底部外面は糸切り。	○施土：良好 色調：白衣 焼成：焼	8 T 塗装 SK-1
17 灰 釉	灰 釉	高台径 6.7cm Q 高台は蛇の目高台風に作り体部は外傾して開く。	○高台は蛇の目高台風に作り体部は外傾して開く。 ○底部外面は糸切り。	○高台は張り付け高台で体部は内外面ともにロク ロナデ調整。	○施土：良好 色調：浅灰白衣 焼成：焼	8 T 塗装 SK-1
18 小 碗	灰 釉	径 9.3cm 影 高 2.3cm 高台径 5.1cm	○高台は断面半円形で体部は外傾して開き、端部を 丸くおさめる。 ○高台端部に糸あとが残る。 ○釉は体部前面に塗り掛け。	○高台は張り付け高台で体部は内外面ともにロク ロナデ調整。	○施土：粘込 色調：白衣 焼成：焼	8 T 塗装 SK-3
19 挂 盆 受	灰 釉	高台径 5.9cm Q 高台は蛇の目高台で体部は強く外傾して開く。 ○底部外面に弱い段が作られる。 ○釉は全面に掛かる。	○高台は張り付け高台で体部は強く外傾して開く。 ○底部外面に弱い段が作られる。 ○釉は全面に掛かる。	○底部外面は不調整で体部外面および内部は糊ナデ 調整。	○施土：粘込 色調：灰白色 焼成：焼	8 T 塗装 SK-4
20 土 皿	土 皿	径 8.4cm 高 1.5cm	○不整形な端部より体部は外傾して開き、端部を強 くおさめ引き出す小皿。	○施土：良好 色調：白衣 焼成：焼	8 T 塗装 SK-1	
21 土 皿	土 皿	径 8.4cm 高 1.55cm	○不整形な端部より体部は外傾して開き、端部を強 くおさめる小皿。	○施土：良好 色調：白衣 焼成：焼	8 T 塗装 SK-1	
22 土 皿	土 皿	径 8.2cm 高 1.5cm	○不整形な端部より体部は内弯して開き、端部を強 くおさめる小皿。	○施土：良好 色調：白衣 焼成：やや焼	8 T 塗装 SK-3	

番号	種類	形	色	調	筆	能土・色調・焼成	備考
23	土師器皿	口 径 8 cm 器 高 1.6cm	○やや不整形な平底より体部は外側して開き、端部をやや引き出でておさめる小皿。	○底部外面は不調整で体外部面および内面は横ナデ調焼。	胎土：良質 色調：淡白色 焼成：やや軟	8T挽張 SK-1	
24	丸 円 金	口 径17.7cm 器 高	○体部は内側して立ち上がり、端部を面取りしておさめる。 ○口輪部下に羽を作る。 ○外面はススが付着している。	○羽は強り付けで、体部は内外面とも横ナデ調堅。	胎土：良好 色調：黒色 焼成：硬	8T挽張 SK-1	
25	丸 羽毛器皿	口 径11.4cm 器 高 2.2cm	○弱く内側して端部を挿入するように折曲しておさめる。	○下半分をヘラ状の工具で面取りしている。	胎土：良好 (2mm以下) も若干含む 色調：黒灰色 焼成：硬	8T挽張 SK-1	
26	土師器皿	口 径11.4cm 器 高 2.35cm	○不整形な平底より体部は外側して開き、口輪部外面をやや膨らませておさめる中皿。	○底部外面は不調整で体部は内外面ともに横ナデ調堅。	胎土：良質 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SD-1	
27	土師器皿	口 径11.4cm 器 高 2.35cm		*	胎土：良好 色調：淡灰褐色 焼成：硬	9・10T SD-1	
28	土師器皿	口 径 11cm 器 高 2.35cm	○やや粗手の作りで、不整形な体部より体部は外側して開き、端部を丸くおさめる中皿。	*	胎土：良好 色調：淡乳灰色 焼成：硬	9・10T SD-1	
29	土師器皿	口 径 7.4cm 器 高 1.55cm	○不整形な底より体部は外側して開き、端部を丸くおさめる小皿。	*	胎土：良好 色調：淡灰白色 焼成：硬	9・10T SD-1	
30	土師器皿	口 径 8.1cm 器 高 1.3cm		*	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SD-1	

番号	種類・器形	法量	形態	調査	整	届土・色調・焼成	参考
31	土師器皿	口径 8.5cm 高 1.5cm	○不整形な底部より体部は内寄ぎみに開き、端部を丸くおさめる小皿。	○底部外面は不調整で体部は内外面とともに擴ナデ調整。		届土：良好 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
32	土師器皿	口径 7.9cm 高 1.5cm	○不整形な底部より体部は外傾して開き、端部を丸くおさめる小皿。	○底部外面は不調整で体部は内外面とともに擴ナデ調整。		届土：良好 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
33	土師器皿	口径 8.3cm 高 1.5cm	○不整形な底部より体部は内寄して開き、端部を丸くおさめる小皿。			届土：良好 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
34	土師器皿	口径 8.2cm 高 1.4cm	○不整形な底部より体部は外傾して開き、端部を丸くおさめる小皿。			届土：良好 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
35	土師器皿	口径 8 cm 高 1.5cm				届土：良好 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
36	土師器皿	口径 8.4cm 高 1.35cm				届土：良好 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
37	土師器皿	口径 8.4cm 高 1.5cm				届土：良好 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
38	土師器皿	口径 8.1cm 高 1.4cm				届土：良好 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
39	土師器皿	口径 8.3cm 高 1.5cm	○不整形な底部より体部は外傾して開き、端部を上方にやや引き出しあおりの小皿。	○底部外面は不調整で体部外面は擴ナデ調整。		届土：良好 色調：深灰色 焼成：硬	9・10T SK-1

番号	種類・形	法 量	形 態	調 整	施 工	備 考
40	土師器 皿	口 径 8.5cm 器 高 1.3cm	○不整形な底部より体部は外傾して開き、端部を丸くおさめる小皿。	○底部外面は不調整で体部外面は横ナデ調整。	施工：良好 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
41	土師器 皿	口 径 8.4cm 器 高 1.5cm	*	*	施工：稍良 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
42	土師器 皿	口 径 8.4cm 器 高 1.6cm	*	*	施工：稍良 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
43	土師器 皿	口 径 8.5cm 器 高 1.3cm	*	*	施工：稍良 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
44	土師器 皿	口 径 8.2cm 器 高 1.45cm	*	*	施工：稍良 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
45	土師器 皿	口 径 8.6cm 器 高 1.25cm	*	*	施工：稍良 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
46	土師器 皿	口 径 8.2cm 器 高 1.4cm	*	*	施工：稍良 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
47	土師器 皿	口 径 8.2cm 器 高 1.5cm	○不整形な底部より体部は内傾しながら開き、端部を丸くおさめる小皿。 ○端部に炭素沈着。	*	施工：稍良 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1
48	土師器 皿	口 径 8.6cm 器 高 1.4cm	○不整形な底部より体部は外傾して開き、端部を丸くおさめる小皿。	○底部は不調整で体部および山根部は横ナデ調整。	施工：稍良 色調：乳白色 焼成：硬	9・10T SK-1

番号	種類	法 量	形 態	調 査	備 考
49	土師器	口径 8.3cm 高 1.5cm	○不整形な底部より体部は外傾して開き、端部を丸くおさめる小皿。	○底部は不調整で体部および口縁部は傾なだ調整。	粘土：精良 色調：乳白色 焼成：硬 9・10T SK-1
50	土師器	口径 8.3cm 高 1.5cm	○不整形な底部より体部は斜く外側して開き、端部を丸くおさめる小皿。	*	粘土：精良 色調：乳白色 焼成：硬 9・10T SK-1
51	土師器	口径 8.2cm 高 1.2cm	*	*	粘土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟 9・10T SK-1
52	土師器	口径 8.3cm 高 1.3cm	*	*	粘土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟 9・10T SK-1
53	土師器	口径 7.9cm 高 1.8cm	○不整形な底部より体部は内湾ぎみに開き、端部を丸くおさめる小皿。	*	粘土：良好 色調：乳白色 焼成：硬 9・10T SK-2
54	土師器	口径 7.9cm 高 1.6cm	○不整形な底部より体部は外傾して開き、端部を丸くおさめる小皿。	*	粘土：良好 色調：乳白色 焼成：硬 9・10T SK-2
55	土師器	口径 7.6cm 高 1.6cm	○不整形な底部より体部は外側して開き、端部を丸くおさめる小皿。	*	粘土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟 8 T 塗装 SK-3
56	土師器	口径 8.1cm 高 1.2cm	○不整形な底部より体部は外傾して開き、端部を丸くおさめる小皿。	*	粘土：精良 色調：乳白色 焼成：硬 9・10T SK-3
57	土師器	口径 11.2cm 高 2.2cm	○不整形な底部より体部は外側して開き、端部を丸くおさめる中皿。	*	粘土：精良 色調：乳白色 焼成：硬 9・10T SK-3

番号	種類器形	法 尺	形 態	調 整	施 工	施土・色調・地盤 参考
58	土師器 皿	口 径 7.8cm 高 1.6cm	○不整形な底より体部は外傾して開き、端部を丸くおさめる小皿。	○底部は不調整で体部もよびり口縁部は横ナナ子調絃。	施土：良好 色調：乳灰色 焼成：焼	8 T 加張 SK-4
59	土師器 高脚盤		○上部をしぶった円柱状の脚部より脚部はロート状に開く。	○器表刷毛のため調整法不明だが横ナナ子調絳と思われる。	施土：良好 (1mm以下のお粗) (含む) 色調：赤褐色 焼成：やや硬	15 T SX-1
60	土師器 高脚盤		*	*	施土：良好 (2mm以下のお粗) (含む) 色調：淡灰黃色 焼成：焼	15 T SX-1
61	灰 器 碗	高台径 8.1cm	○高台は断面四辺形をなし体部は内擡ぎみに開く。 ○灰輪は体部内面盛り掛け。	○高台は張り付け高台で体部は内外面クロナ子調絳。	施土：稍良 色調：白灰色 焼成：硬	17 T 薄 内
62	瓦 器 碗	口 径14.1cm	○体部は内擡して立ち上がり口縁端部を丸くおさめる。 ○口縁部内面に一条の沈線を入れる。	○内外面横方向の施なへラ筋き。 ○体部内面は横方向の施なへラ筋きで、底部は螺旋筋文を入れる。	施土：稍良 色調：灰褐色 焼成：硬	18 T 薄 内
63	瓦 器 碗	高台径 6.1cm	○高台はふんばった形に外にやや引き出され四辺形をなし、体部は内擡して開く。	○体部外面は横仕工による蛇形後クロナ子調絳。	施土：稍良 色調：黑色 焼成：硬	18 T 薄 内
64	須恵器 灰質壺	口 径14.3cm	○口縁は上方に立ち上がり端部を丸くおさめる。 ○体部は内擡ぎみに開き、強く肩が張り最大直径は上位にある。	○1は外部外面は横仕工による蛇形後クロナ子調絳。 ○体部は内外面ともに横ナナ子調絳。	施土：稍良 色調：灰 焼成：焼	16 T セメント 包 合
65	須恵器 甌	口 径10 cm	○強くしまった頸部より口縁部は内擡して開き端部を外側に引き出してなくおさめる。 ○口縁部外面下部に凹線を一条入れる。	○内外面横ナナ子調絳。	施土：良好 色調：墨灰色 焼成：焼	16 T セメント 包 合

番号	種類器形	法 益	形 態	間 隔	備 考
66	須惠器 坪 蓋	口 径12.9cm 器 高 3.3cm	○掛け部は断面三角形をなし屈曲してドーム状の大 井部へと繋く。	○内面および外面下3分の2は横ナナメ調整で外面上 部はヘラ切り。	胎土：精良 色調：青灰色 焼成：硬 16 T 包含層
67	灰 烟 瓶	高台径 6.9cm	○高台はやや外側にふんばった四辺形をなす底部は 厚手に作られている。	○高台は張り付け高台と思われ高台および体部内外 面はクロロナナメ調整。 ○底部は承切り。	胎土：精良 色調：淡灰白色 焼成：硬 16 T 包含層
68	灰 烟 瓶	高台径 7.9cm	○高台は断面三角形をなし、体部は外傾して開く。 ○体部外面は厚手に作られている。	○高台は張り付け高台で高台および体部内外面はロ クロロナナメ調整。	胎土：精良 色調：白灰色 焼成：硬 16 T 包含層
69	須惠器 鉢	高台径15.9cm	○高台は断面四辺形をなし体部は外傾して開く。 ○体部内部は摩耗している。	○高台は張り付け高台と思われ高台ヘラ削り調整。 ○体部外面はヘラ削り調整。	胎土：良好 (2mm前後の玉石) (粗粒を含む) 色調：淡灰白色 焼成：硬 16 T 包含層
70	常滑燒 盤	口 径20.6cm	○底部は内傾して立ち上がり口縁部は外側に引き出 し端部を上方に屈曲して丸くおさめる。 ○内外面ともに自然軸がかかる。	○頭部および口縁部とともに横ナナメ調整。	胎土：良好 (2mm前後の玉石) (粗粒を含む) 色調：青灰茶色 焼成：硬 16 T 包含層
71	土師器 要	口 径 18mm	○ややしまつた頭部より口縁部は外側ざみに開き屈 曲して立ち上がり端部を外側に引き出すいわゆる 近江型受口状口縁。 ○口縁部外面に一条のヘラによる沈線をほどこす。	○頭部および口縁部とともに横ナナメ調整。 ○頭部外面下半部はカキ目調査。	胎土：良好 (2mm以下のお砂) (粗粒を含む) 色調：淡紅褐色 焼成：硬 16 T SK-1
72	土師器 壺底部		○やや厚手の凹み底の底部から体部は大きく外傾し て開く。	○体部外面は弱いハケ調整の後に横ナナメ調整。 ○底部は内外面ともに横ナナメ調整。	胎土：良好 (2mm以下のお砂) (粗粒を含む) 色調：淡紅褐色 焼成：硬 16 T SK-1

番号	種別・器形	注	量	形	遊	調	整	施土・色調・焼成	備考
73	土師器 口 直 高	径15.1cm 器 高 2.9cm	○不整形な底部より体部は外等ぎみに開き、口輪端部を丸くおさめる大皿。	○底部は不調整で体部外面上半分および口輪部と内面は構ナゲ調燃。	○体部半分外面には指觸土張ものをこす。	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留
74	土師器 口 直 高	径14.5cm 器 高 2.5cm	+	+	+	+	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟
75	土師器 口 直 高	径14.8cm 器 高 3 cm	○不整形な底部より体部はやや内等ぎみに開き、口輪端部を丸くおさめる大皿。	+	+	+	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟
76	土師器 口 直 高	径15cm 器 高 3.1cm	+	+	+	+	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟
77	土師器 口 直 高	径14.9cm 器 高 3.3cm	+	+	+	+	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟
78	土師器 口 直 高	径15.4cm 器 高 3.1cm	+	+	+	+	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟
79	土師器 口 直 高	径15.6cm 器 高 2.5cm	○不整形な底部より体部は外等ぎみに開き、口輪端部を丸くおさめる大皿。	+	+	+	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟
80	土師器 口 直 高	径15.2cm 器 高 2.8cm	+	+	+	+	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟
81	土師器 口 直 高	径15.3cm 器 高 3.1cm	○不整形な底部より体部は外傾して開き、口輪端部を丸く上方に引き出しきめる大皿。	○底部外面は不調整で体部上半分および内面は横ナゲ調燃。	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留	胎土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟

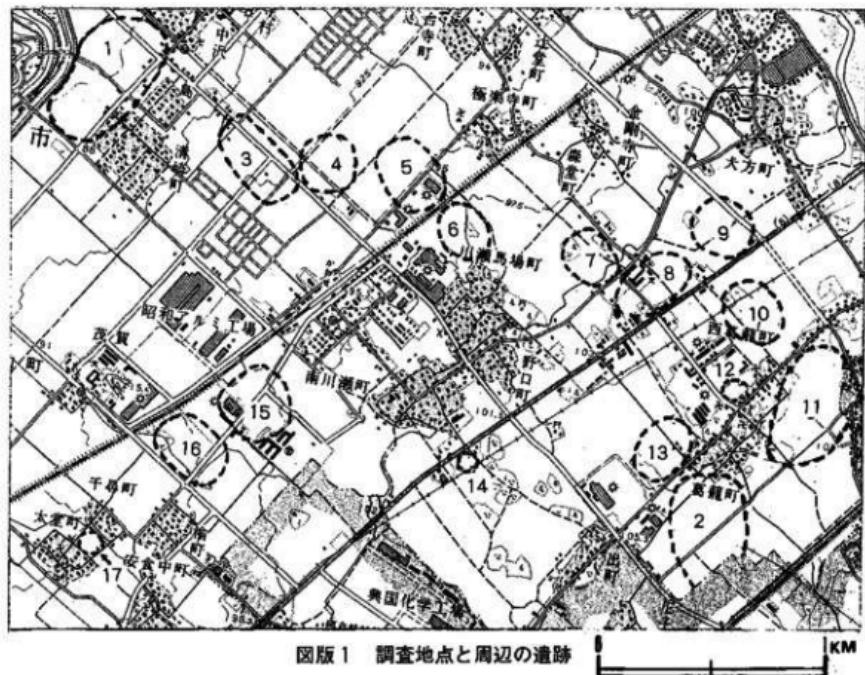
番号	種類器形	法 量	形 態	性 能	脚 輪	輪 轂	胎土・色調・焼成 条件	備考
82	土師器皿	口径 9cm 高 1.4cm	○不整形な底部より体部は外傾して開き、口端部 を丸くおさめる小皿。	○底側外面は不調整で体部上半分おおむね輪ナ 子調整。	*	*	胎土：良好 色調：白色 焼成：やや緩	16 T 土器留
83	土師器皿	口径 8.9cm 高 1.95cm	*	*	*	*	胎土：良好 色調：白色 焼成：やや緩	16 T 土器留
84	土師器皿	口径 9cm 高 1.8cm	*	*	*	*	胎土：稍良 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留
85	土師器皿	口径 9cm 高 1.2cm	*	*	*	*	胎土：良好 色調：白色 焼成：やや軟	16 T 土器留
86	土師器皿	口径 8.8cm 高 1.65cm	*	*	*	*	胎土：良好 色調：白色 焼成：やや軟	16 T 土器留
87	土師器皿	口径 8.8cm 高 1.6cm	○不整形な底部より体部は内凹ぎみに開き、口端部 を丸くおさめる小皿。	*	*	*	胎土：稍良 色調：白色 焼成：緩	16 T 土器留
88	土師器皿	口径 9.2cm 高 2cm	*	*	*	*	胎土：稍良 色調：白色 焼成：やや軟	16 T 土器留
89	土師器皿	口径 9cm 高 1.8cm	*	*	*	*	胎土：稍良 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留
90	土師器皿	口径 8.8cm 高 1.9cm	*	*	*	*	胎土：良好 色調：白色 焼成：やや緩	16 T 土器留

番号	種類	形	色	性状	剖面	焼成	粘土・色調・焼成	備考
91	土師器 皿 直	口径 9cm 高 1.65cm	○不整形な底面より体部は外傾して開き、口縁端部を丸くおさめる小皿。	○底部外側は不調整で体部上半分および内面は幅ナ子調査。	粘土：良好 色調：白衣色 焼成：やや軟	16 T 土器留	16 T 土器留	16 T 土器留
92	土師器 皿 直	口径 9cm 高 1.9cm	*	*	粘土：良好 色調：白衣色 焼成：やや硬	16 T 土器留	16 T 土器留	16 T 土器留
93	土師器 皿 直	口径 8.9cm 高 1.7cm	*	*	粘土：良好 色調：乳白色 焼成：やや軟	16 T 土器留	16 T 土器留	16 T 土器留
94	土師器 皿 直	口径 8.7cm 高 1.5cm	○不整形な底面より体部は内凹して開き、口縁端部を丸くおさめる小皿。	*	粘土：良好 色調：白衣色 焼成：やや軟	16 T 土器留	16 T 土器留	16 T 土器留
95	土師器 皿 直	口径 8.7cm 高 1.6cm	*	*	粘土：良好 色調：白衣色 焼成：やや硬	16 T 土器留	16 T 土器留	16 T 土器留
96	土師器 皿 全	最大径2.35cm 長3.95cm		○手彫り雲形。	粘土：粗良 色調：茶色 焼成：硬	8 T 振込 SK-1	8 T 振込 SK-1	8 T 振込 SK-1
97	土器質 土 瓶	最大径2.95cm		*	粘土：粗良 色調：白衣色 焼成：硬	8 T 振込 SK-1	8 T 振込 SK-1	8 T 振込 SK-1
98	土師質 土 瓶			*	粘土：粗良 色調：白衣色 焼成：硬	8 T 振込 SK-1	8 T 振込 SK-1	8 T 振込 SK-1
99	土師質 土 瓶	最大径0.95cm		*	粘土：良好 色調：乳白色 焼成：硬	8 T 振込 SK-4	8 T 振込 SK-4	8 T 振込 SK-4

番号	種類器形	法 直	形 塘	調 營	備 考
100 土 磁	土師質 全 長 最大径 0.8cm 長3.25cm		○手捏ね盤形。	泥土：精良 色澤：淡赤褐色 燒成：燒	17 T 包含層
101 石製品 磁 石		○圓面および両側面を使用している。 ○やや粗い砥石である。			8 T地盤 SK-4
102 石製品 磁 石		○両面および側面1ヶ所を使用している。 ○やや仕上げ砥に近い。			8 T地盤 SK-1
103 石製品 磁 石		○両側面を使用しておりまた側面角に円椎形の使用 後と同様の4分の1の使用痕がある。 ○仕上げ砥に近い石質である。			9・10T SK-1
104 木製品 下 盆	最大D17.25cm	○盆縁の穴は左右対称にあけられているが、規則の あたる所が回んでおり右足の下盆と考えられる。	○木からの削り出しによって作られる。		9・10T SK-1
105 木製品 不 明	最大径3.65cm 厚さ2.45cm	○側面状に丸く作る。	○針鑿痕を削り出している。		9・10T SD-1
106 木製品 自在脚か ら		○枝を加工して鉢状に作っており自在鉢と考えられ る。	○枝の部分を削り鉢状に加工している。		9・10T SD-1
107 木製品 不 明	最大D2.15cm 全 長 28.6cm	○半円形の断面を持ち、3ヶ所に直径4cmほどの六 角孔をあけている。 ○穴の中に竹製のものが2ヶ所残っている。	○表面を削り平円形にする。		8 T地盤 SK-1
108 木製品 曲物器	径 13.9 cm 厚さ 0.9cm	○板をほぼ円形に作っている。	○加工痕があまりなく加工法は不明。 ○樹脂は不明であるが針鑿痕と思われる。		8 T地盤 SD-3

番号	種類品形	法 直	形 態	調 紜	粘 土・色調・煙火	留 考
109 曲物足	木製品 脚	ø き 0.75cm		○計数樹と思われるが別工方法は不明。		8 T鉛張 SD-3
110 桟	木製品 桟	高台径 8.2cm	○高台は蛇の目高台風に削り体部は内寄して立ち上がり口輪部を外寄させている。 ○内面と外面高台外面に黒漆を塗る。	○クロ削りで一本から削り出している。		8 T鉛張 SK-1
111	木製品 桟	高台径 9 cm	○高台は、平底で体部は内寄して立ち上がり口輪部を外寄させている。 ○高台底部に變化状の彫り込みがある。 ○高台外面から体部内外面ともに黒漆を塗り内面に朱漆による文様を入れている。	○体部はクロ削りで一本から削り出している。 ○高台底部の變化状の文様は彫刻状の工具で削り出している。		8 T鉛張 SK-1

図 版

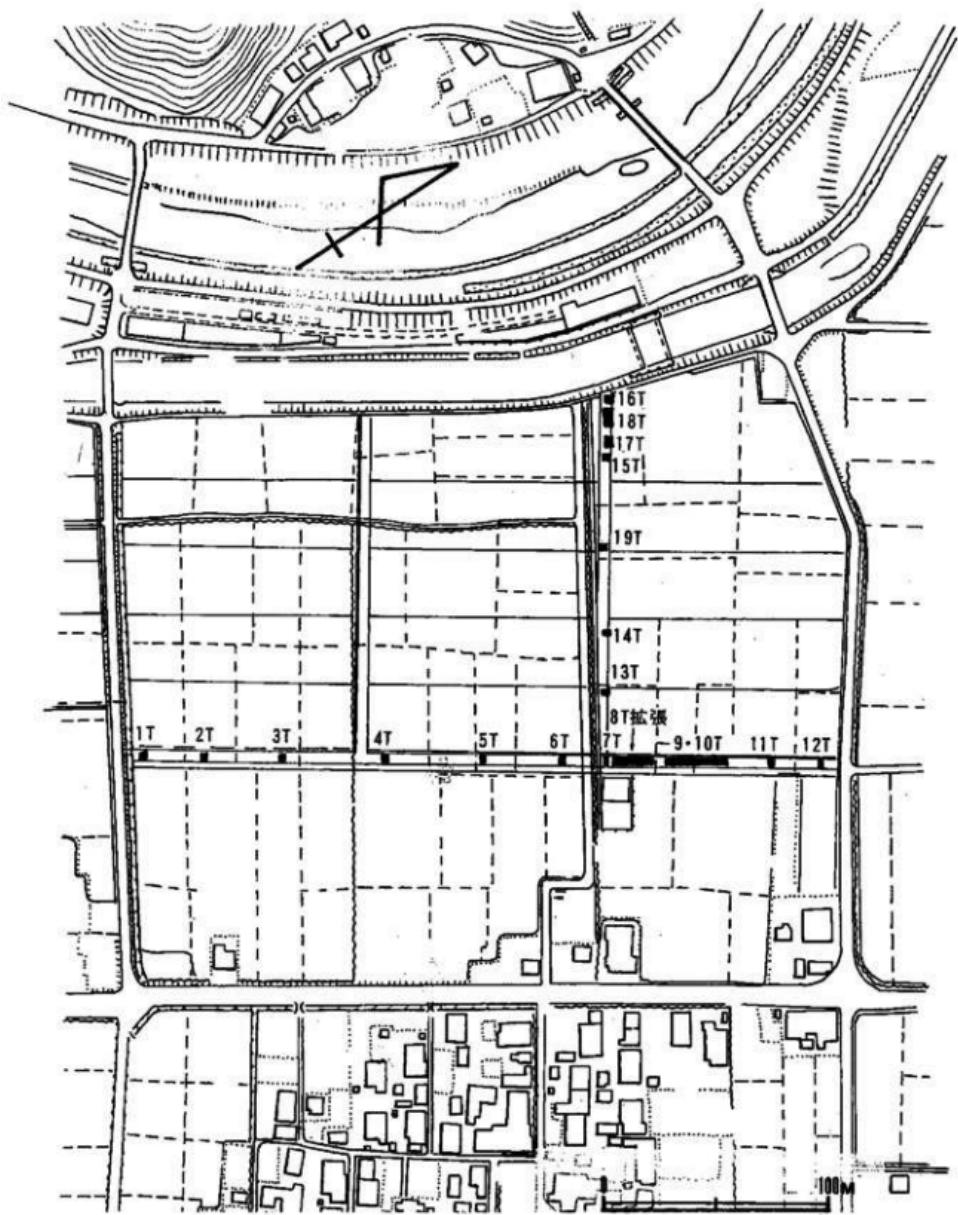


図版1 調査地点と周辺の遺跡

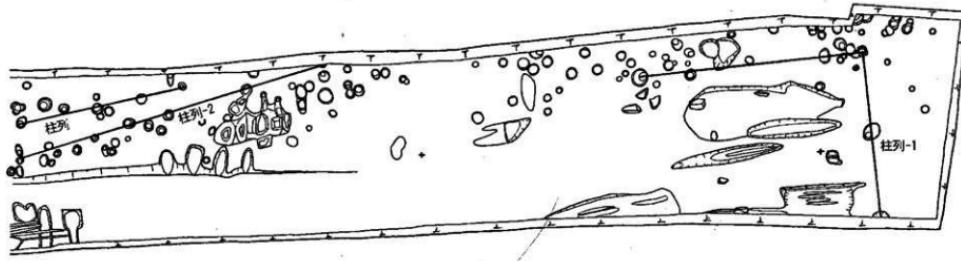
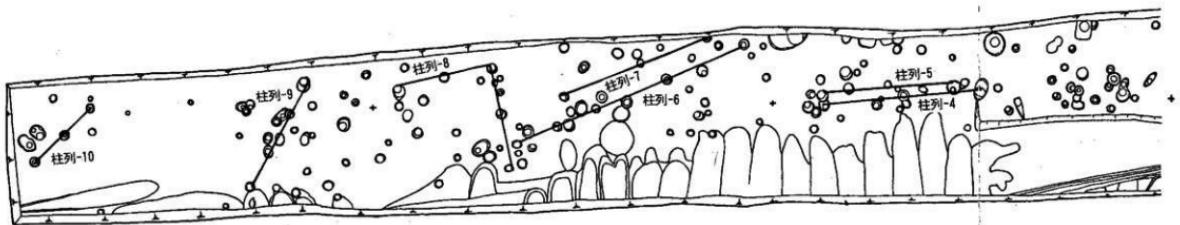
1	蛭目遺跡(今回調査地)	10	葛籠北遺跡
2	葛籠南遺跡(今回調査地)	11	法師南遺跡
3	川瀬馬場遺跡	12	西葛籠遺跡
4	鶴ヶ池遺跡	13	南川瀬南遺跡
5	杉田遺跡	14	南河瀬遺跡
6	西海道遺跡	15	十八遺跡
7	天田遺跡	16	横田遺跡
8	極楽寺遺跡	17	千尋遺跡
9	段ノ東遺跡		

図版2 勘定南道跡第2次トレーナ配置図



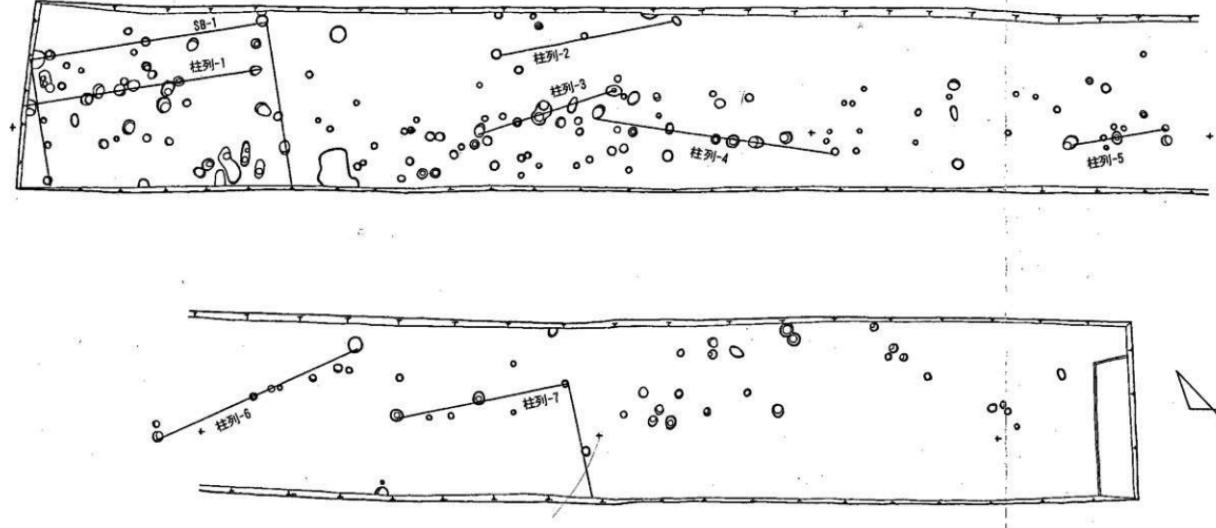


図版3 綾目遺跡トレンチ配置図



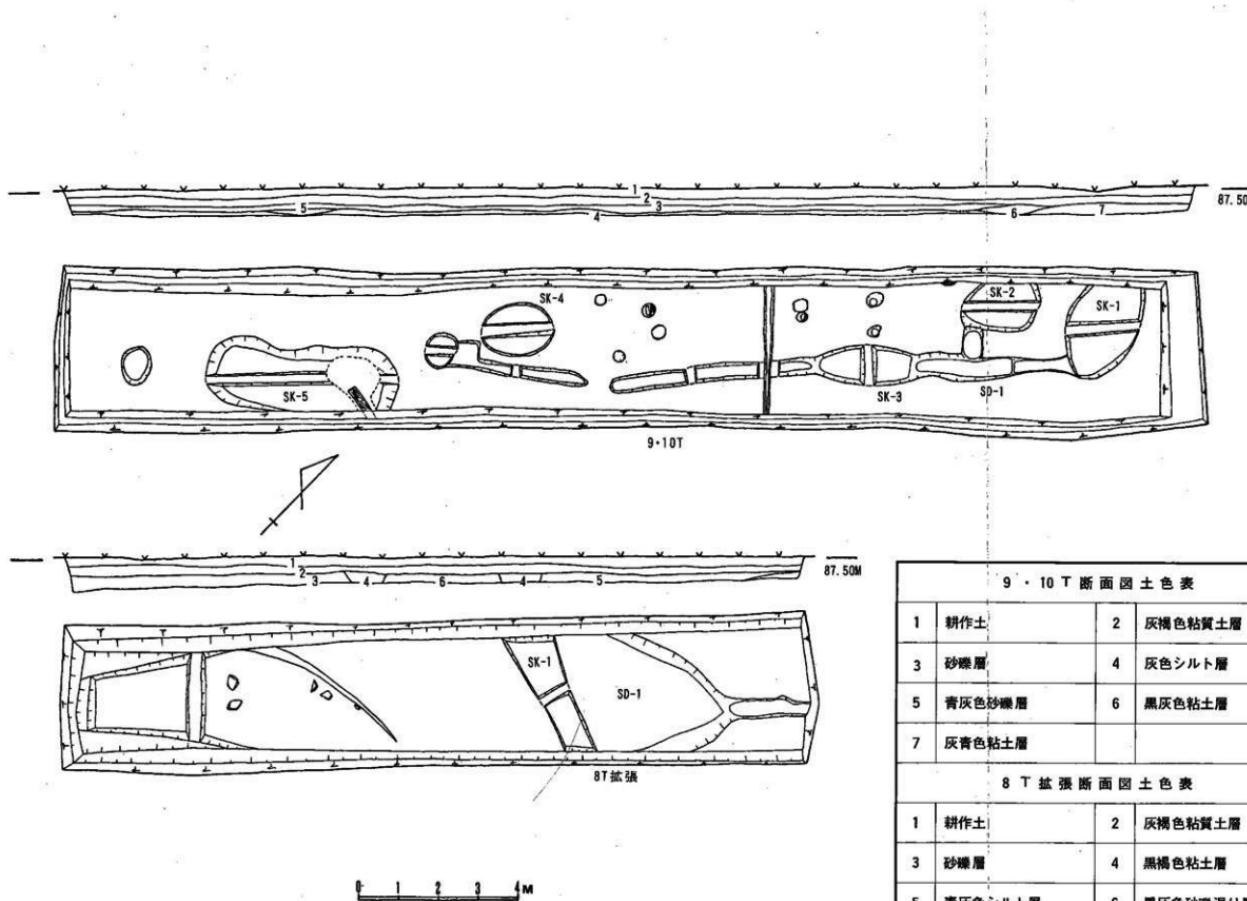
図版4 葛雞南遺跡第2次1T遺構図





図版5 墓籠南遺跡第2次2丁遺構図

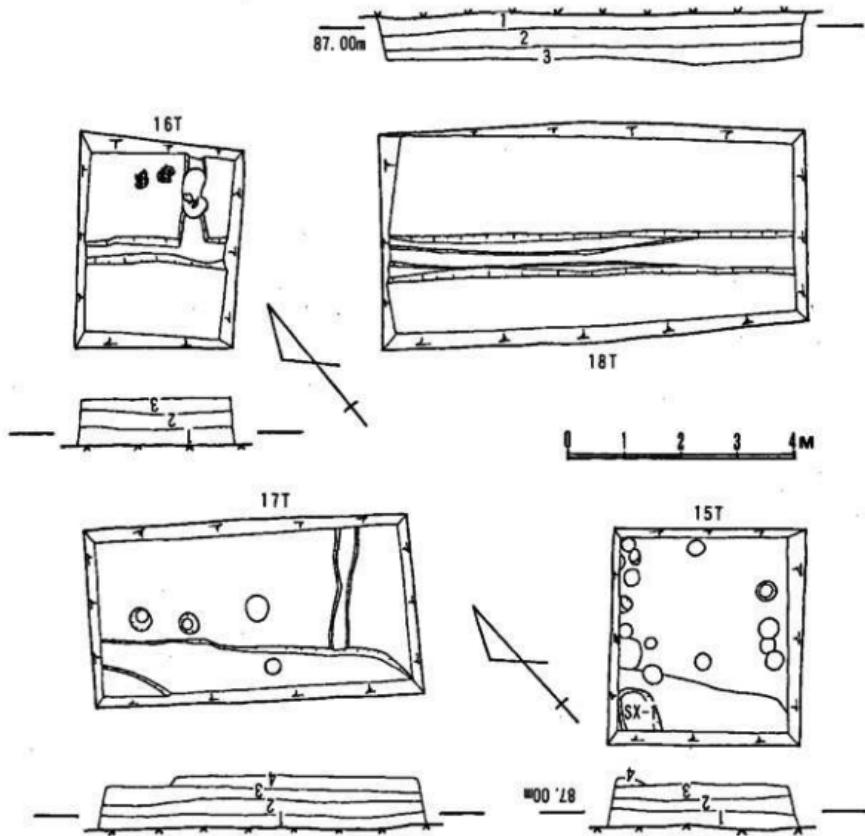
1 2 3 4 M



図版6 經目遺跡8T拡張および9・10T遺構図

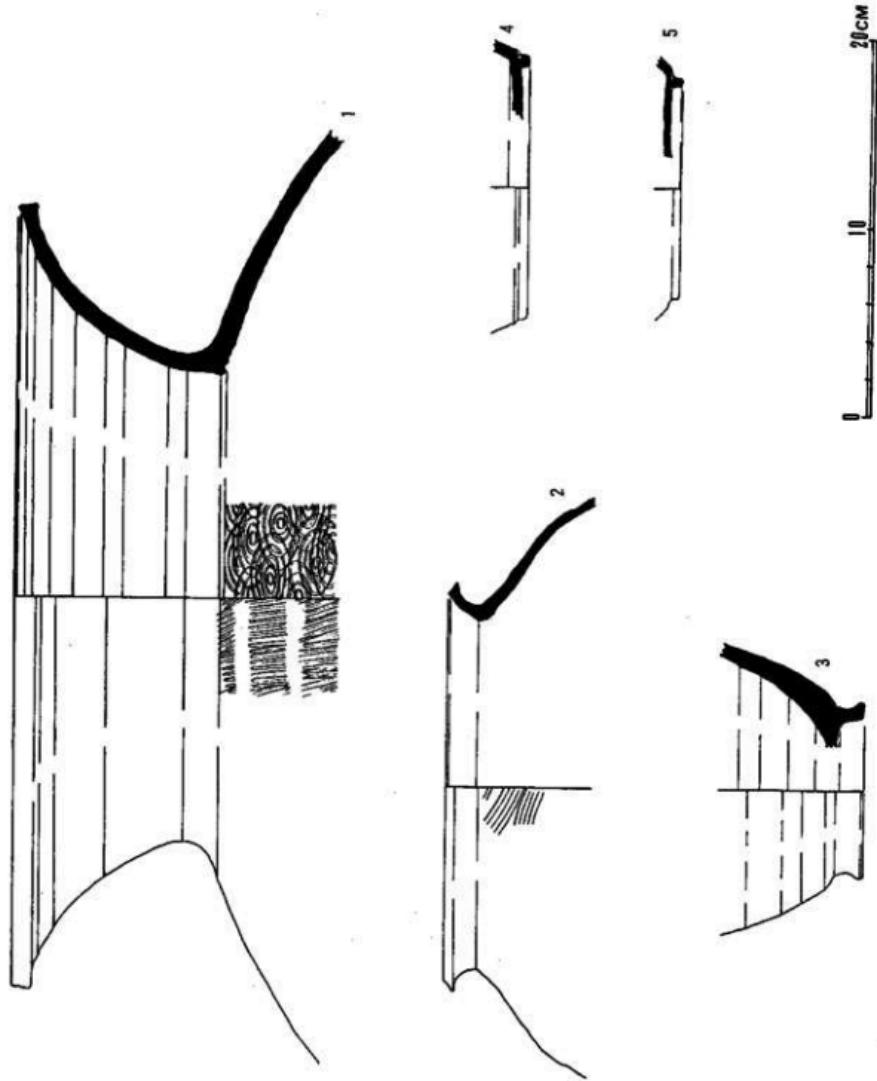
9・10T断面図土色表	
1 耕作土	2 灰褐色粘質土層
3 砂疊層	4 灰色シルト層
5 青灰色砂疊層	6 黑灰色粘土層
7 灰青色粘土層	

8T拡張断面図土色表	
1 耕作土	2 灰褐色粘質土層
3 砂疊層	4 黑褐色粘土層
5 青灰色シルト層	6 黑灰色砂疊混り層

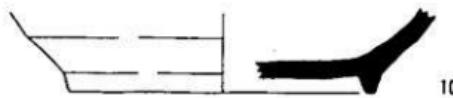
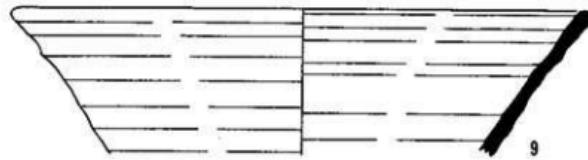
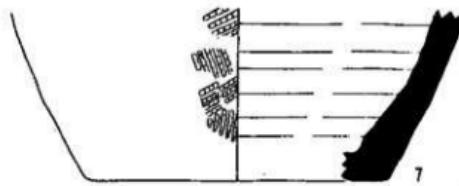
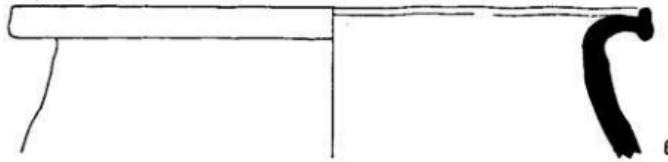


16T・18T断面図土色表		17T断面図土色表		15T断面図土色表	
1	耕作土	1	耕作土	1	耕作土
2	灰褐色粘質土層	2	灰褐色粘質土層	2	灰褐色粘質土層
3	茶褐色粘質土層	3	茶褐色粘質土層	3	茶褐色粘質土層
		4	黑灰色粘質土層	4	黑褐色粘質土層

図版7 經目遺跡15~18T構造図



圖版 8 葛蘿南遺跡第 2 次出土遺物實測圖

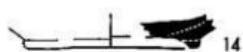


— 20 CM —

図版9 綱目遺跡出土遺物実測図



13



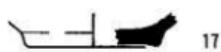
14



15



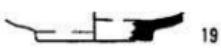
16



17



18



19



20



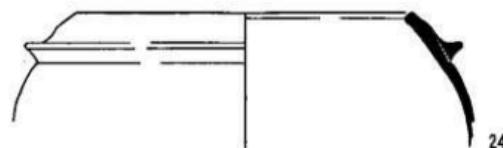
21



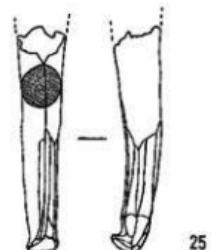
22



23



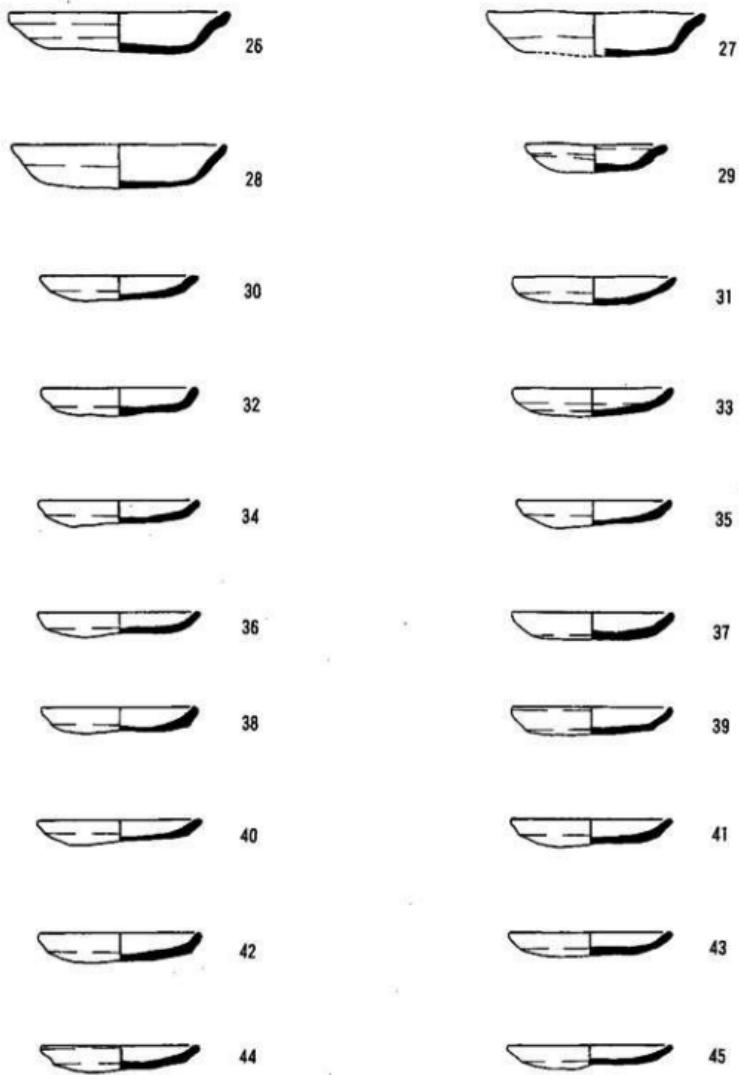
24



25



図版10 綱目遺跡出土遺物実測図



10 20CM

図版11 蝦目遺跡出土遺物実測図



46



47



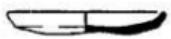
48



49



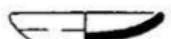
50



51



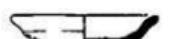
52



53



54



55



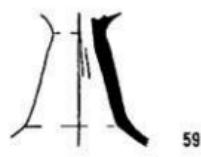
56



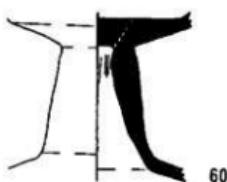
57



58



59



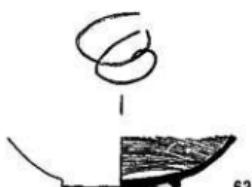
60



61

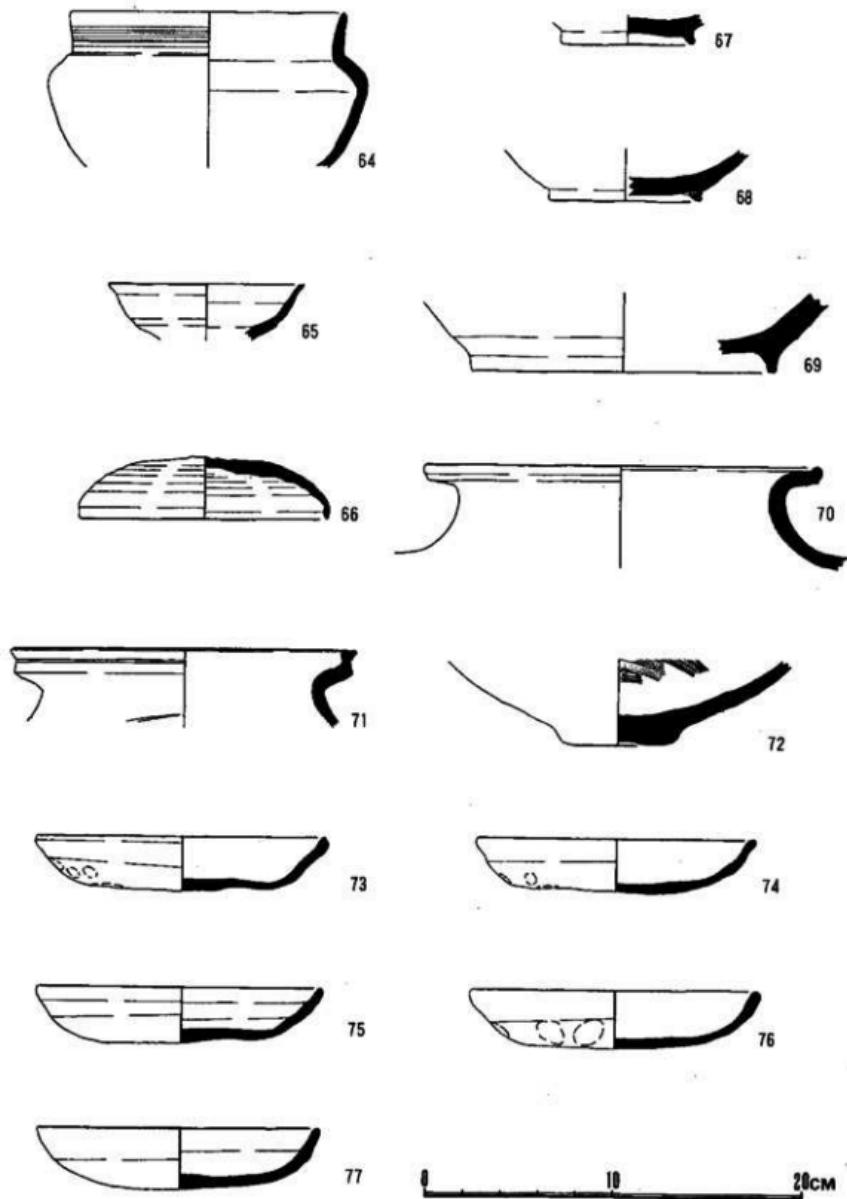


62

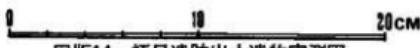
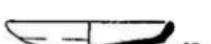
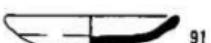
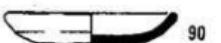
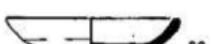
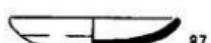
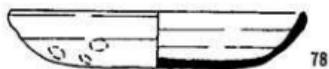


63

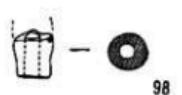
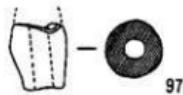
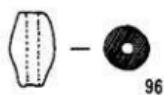
図版12 綾目遺跡出土遺物実測図



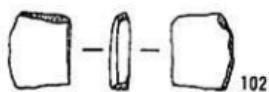
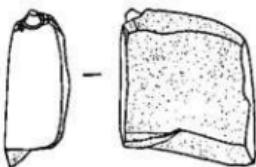
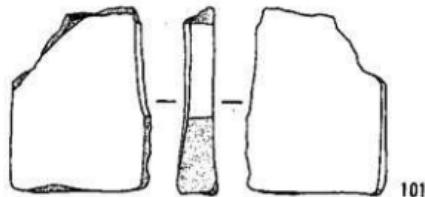
図版13 蛭目遺跡出土遺物実測図



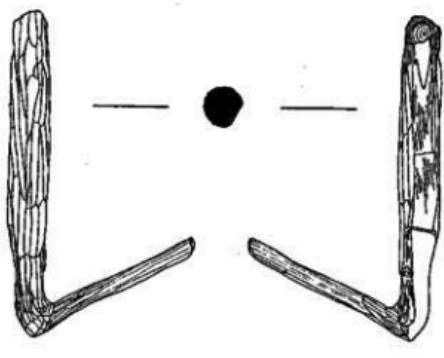
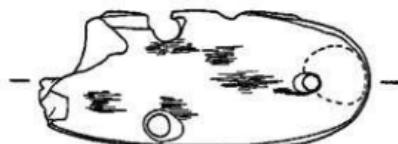
図版14 鮎目遺跡出土遺物実測図



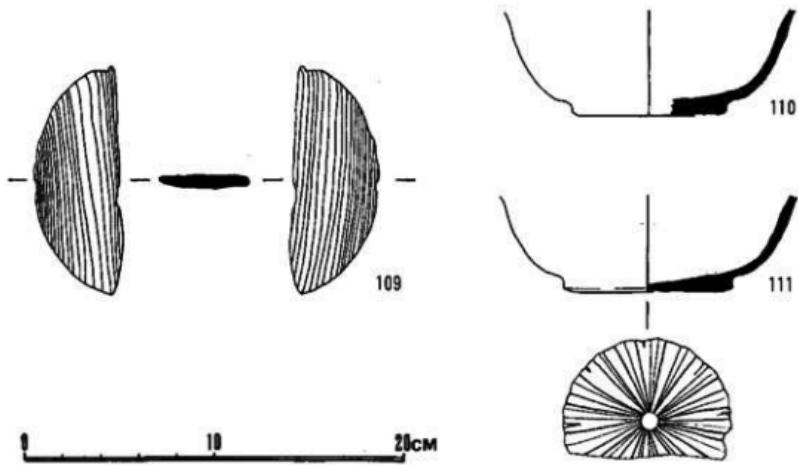
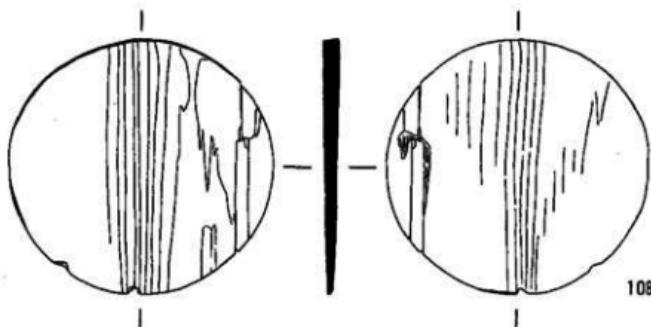
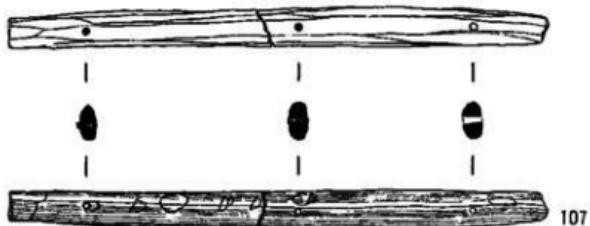
100



10 20CM



図版15 蛭目遺跡出土遺物実測図



10 20CM

図版16 經目遺跡出土遺物実測図



葛籠南遺跡第2次1T遺構検出状況（東側から）

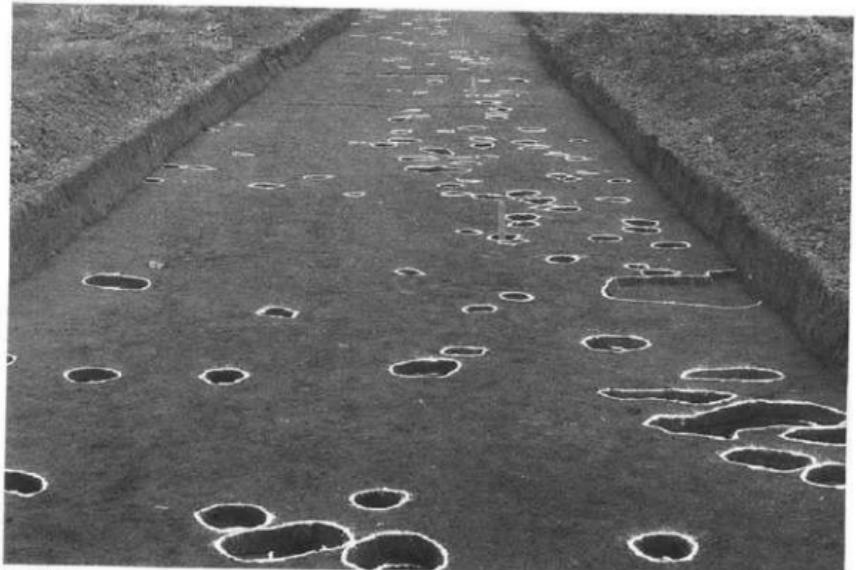


図版17

葛籠南遺跡第2次1T遺構検出状況（西側から）



葛籠南遺跡第2次2T遺構検出状況（北側から）



図版18

葛籠南遺跡第2次遺構掘り込み状況（北側から）

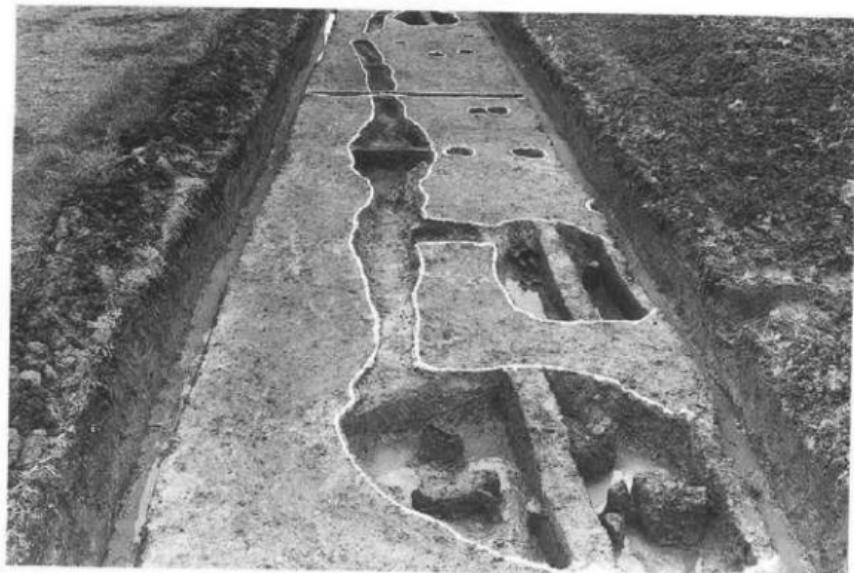


蛭目遺跡近影



図版19

蛭目遺跡9・10T遺構検出状況



経目遺跡 9・10T 堀り込み状況（北から）



図版20

9・10T SK-1下駄出土状況



姪目遺跡 8 T 拡張掘り込み状況（南から）



図版21

姪目遺跡 8 T 拡張漆器出土状況

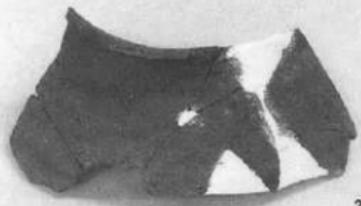
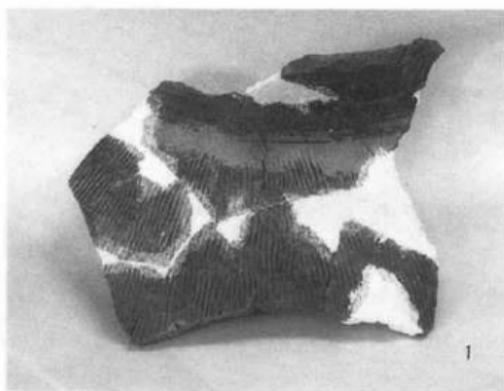


蛭目遺跡16T掘り込み状況（北から）

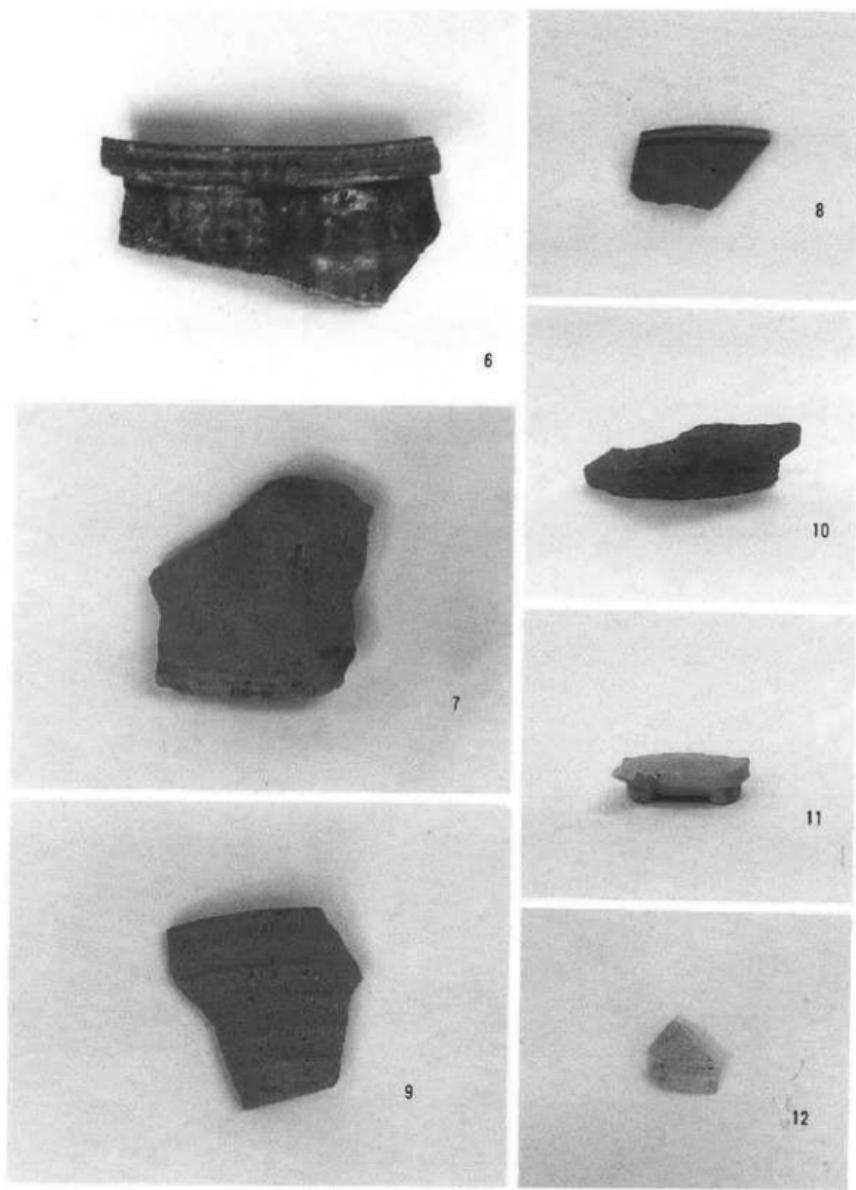


図版22

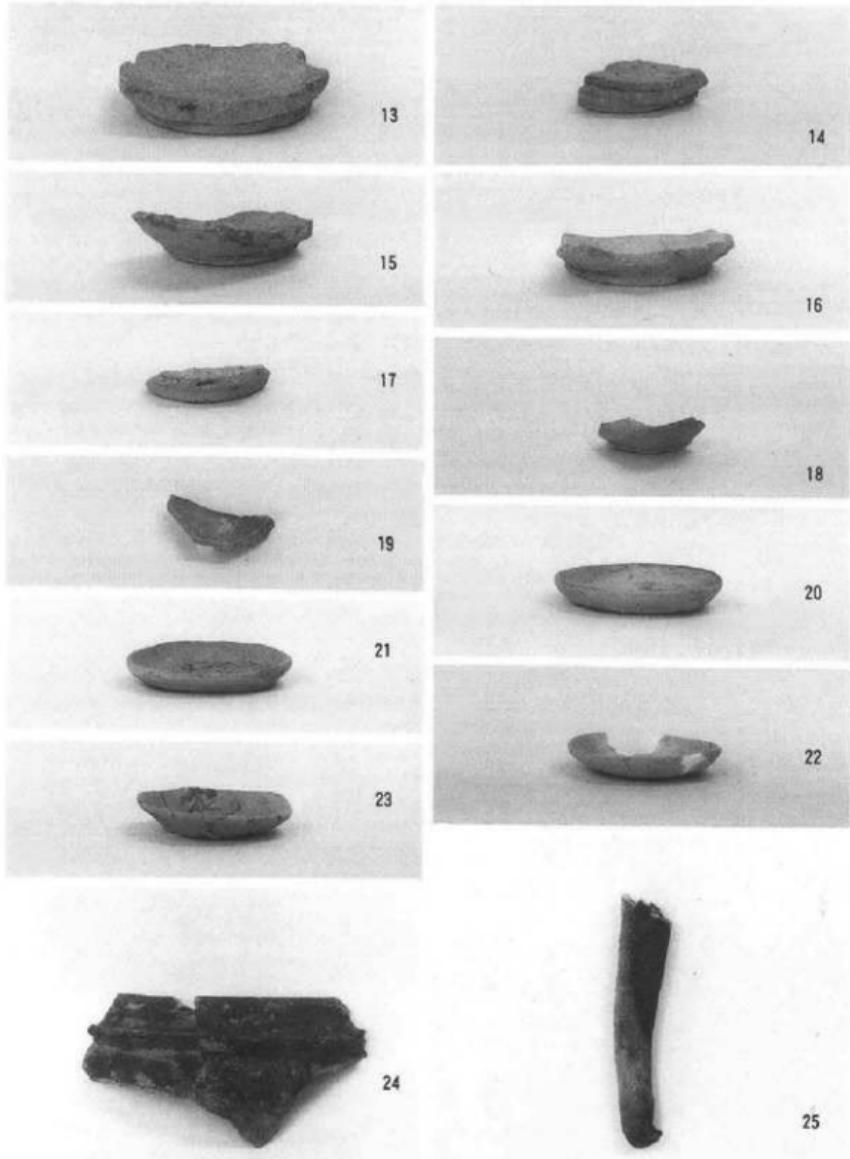
16T 土器留換出状況



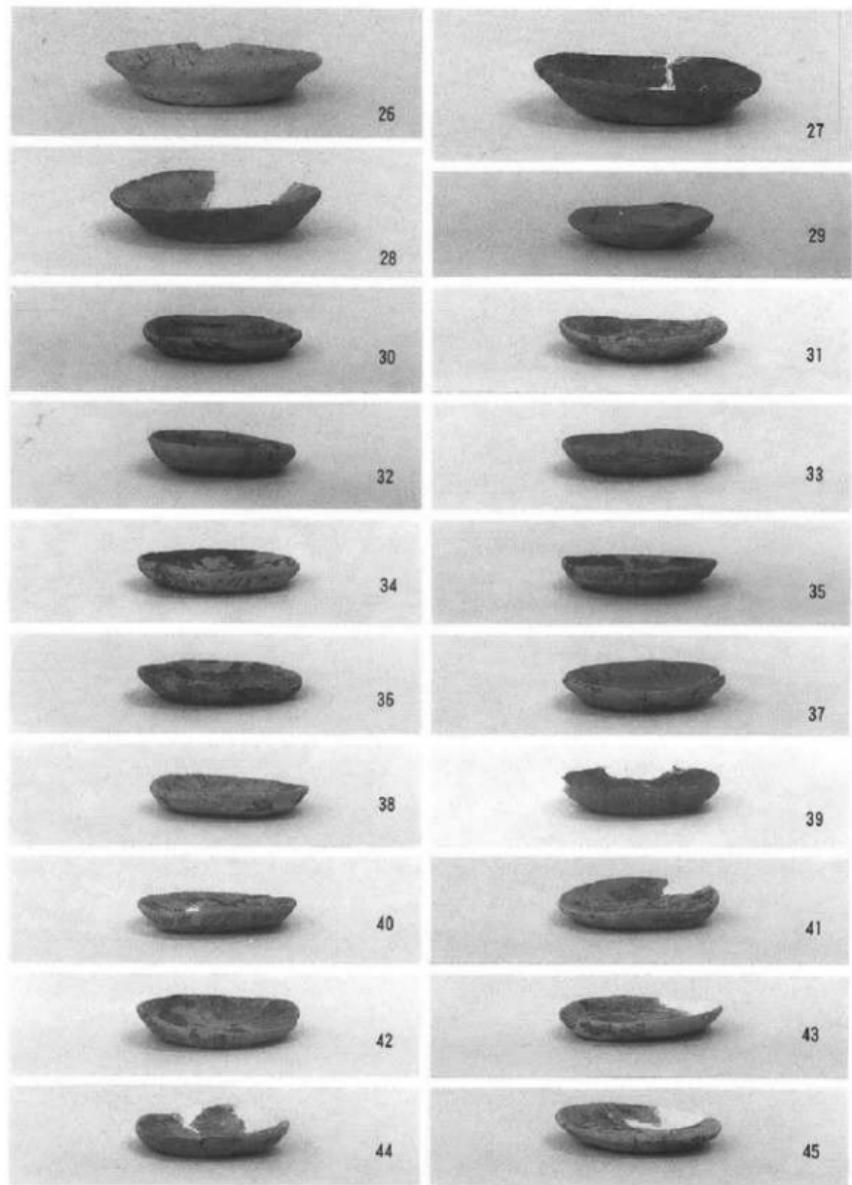
图版23 葛籬南遺跡第2次出土遺物



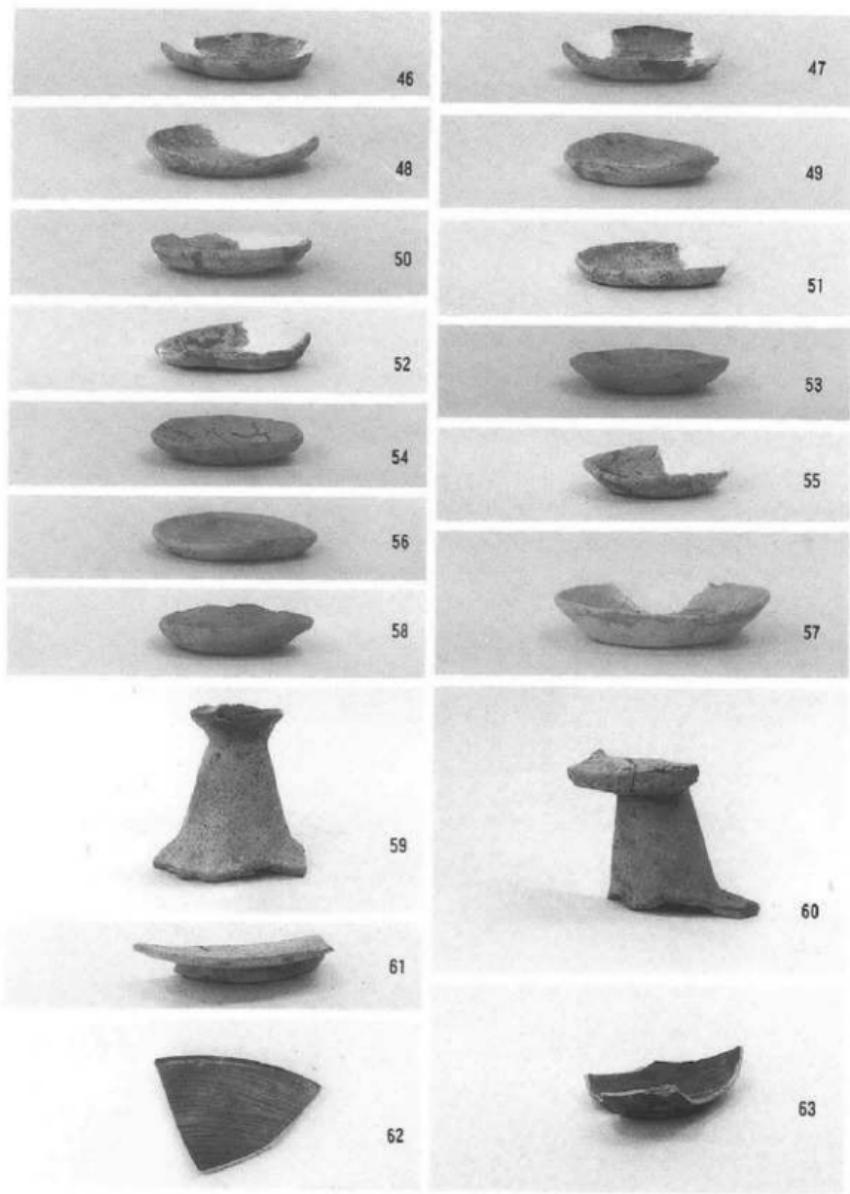
図版24 蛭目遺跡出土遺物



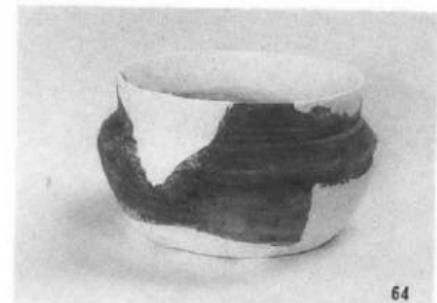
图版25 景目遗址出土遗物



図版26 銅目遺跡出土遺物



図版27 晴目遺跡出土遺物



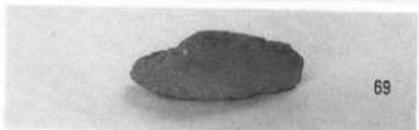
64



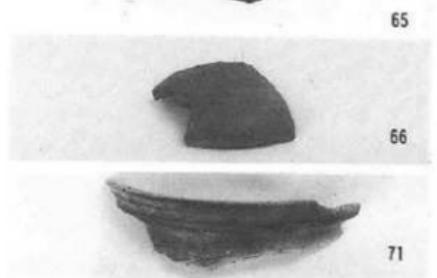
67



68



69



66



71



73



74

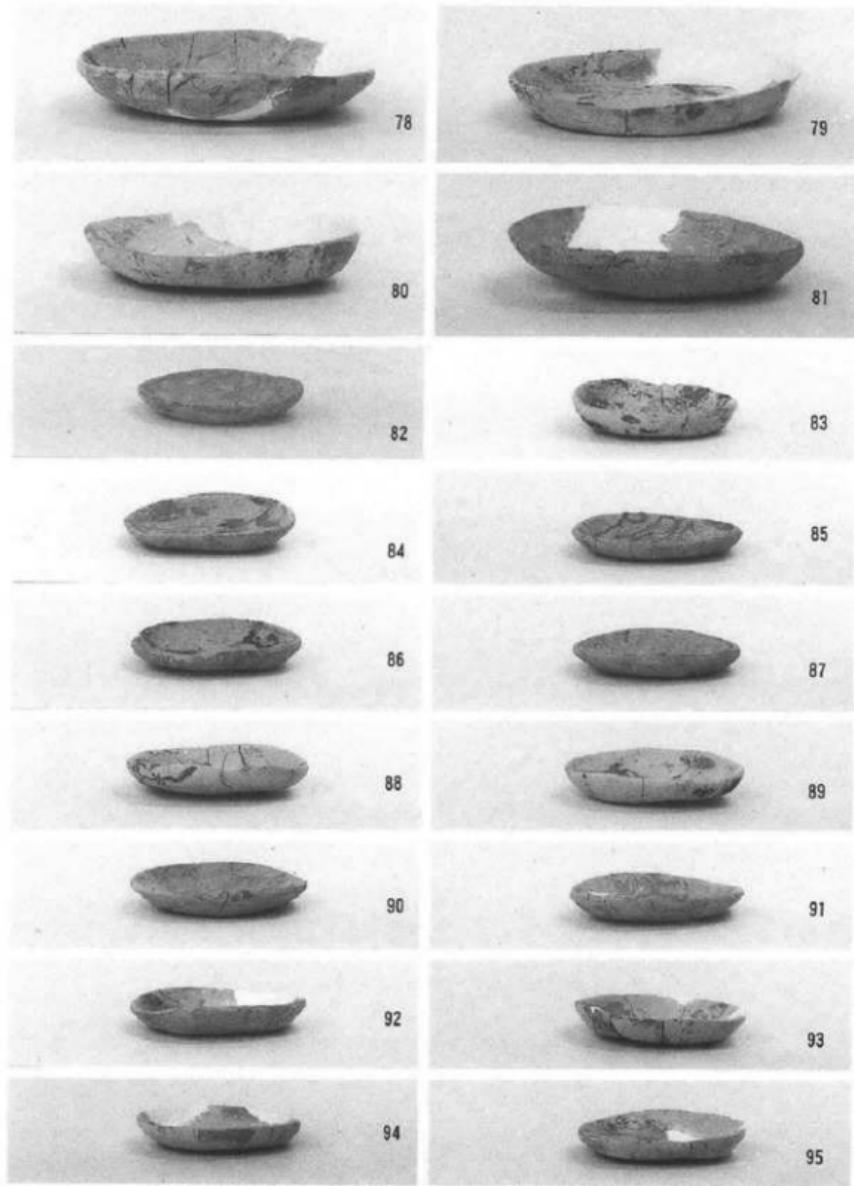


75

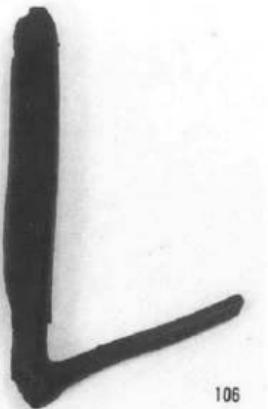
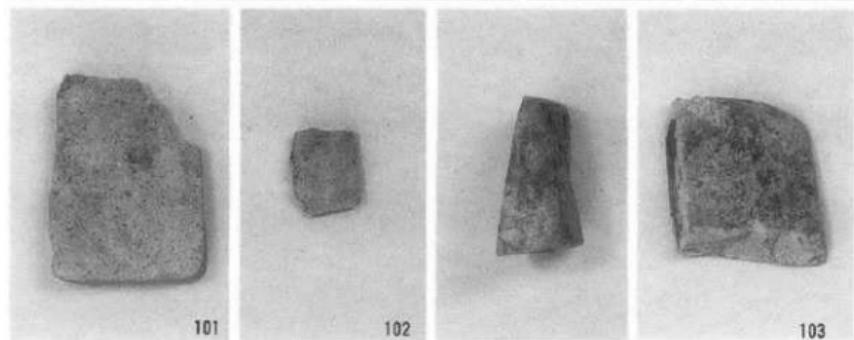
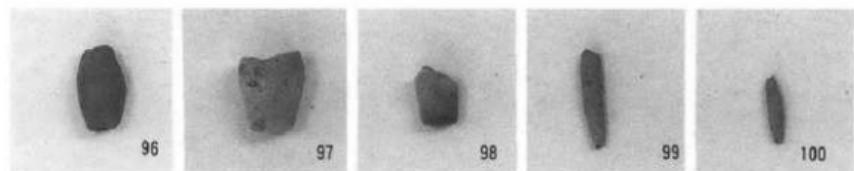


76

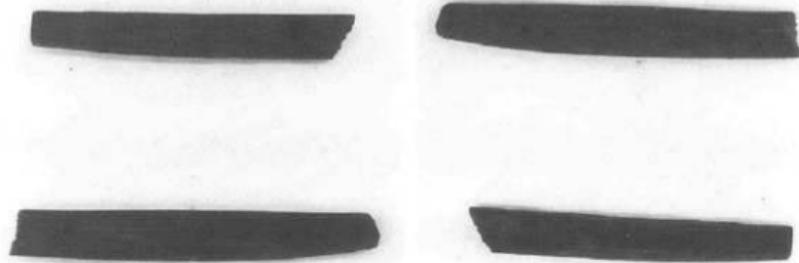
图版28 蛤目遺跡出土遺物



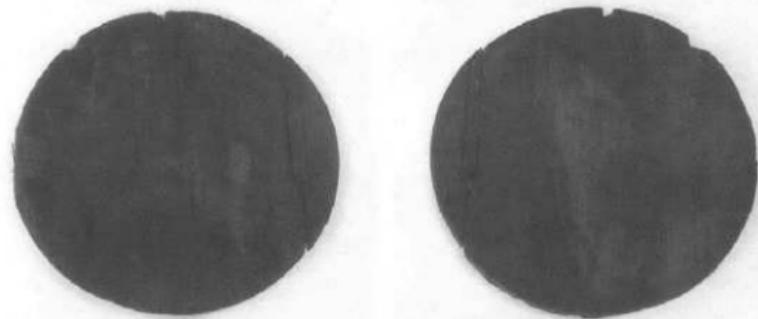
図版29 綾目遺跡出土遺物



图版30 蝗目遗踪出土遗物



107

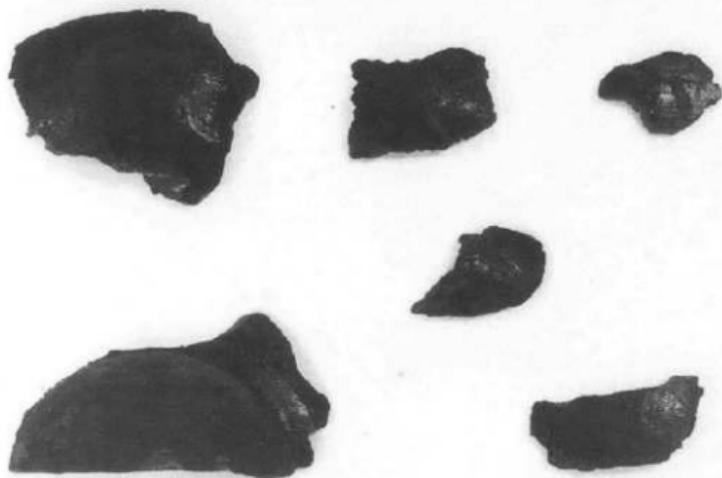


108

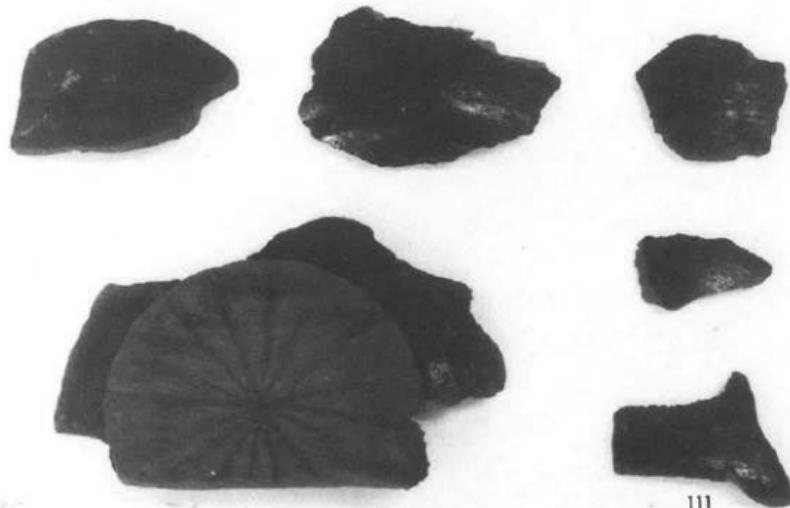


109

圖版31 經目遺跡出土遺物



110



111

図版32 景目遺跡出土遺物

